Enterprise License Manager ユーザ ガイド、リリース 9.1(2)

初版：2013 年 06 月 19 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに vii

Enterprise License Manager 1

Enterprise License Manager のインストールとアップグレード 3

Enterprise License Manager のインストール 3

スタンドアロン型 Enterprise License Manager のインストール 4

インストールの開始 5

設定情報の入力 6

基本インストールの実行 7

アップグレード情報 10

プラットフォーム GUI によるソフトウェアのアップグレード 10

ローカル ソースからのアップグレード 10

リモート ソースからのアップグレード 11

CLI を使用したスタンドアロン型 Enterprise License Manager のアップグレード 13

ローカル ソースからのアップグレード 13

リモート ソースからのアップグレード 14

アップグレード後の作業 15

COP ファイルのインストール 15

Enterprise License Manager の操作 19

Enterprise License Manager の考慮事項 19

Enterprise License Manager へのログイン 20

製品インスタンスの追加 20

製品インスタンスの編集 21

製品インスタンスの削除 22

システム ステータス情報 22

[ダッシュボード（Dashboard）] ビュー 23

[ライセンスの使用状況（License Usage）] ビュー 24

ライセンスの履行 25
[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィザードを使用してライセンスを移行する 28
ライセンスの追加ウィザードを使用した新しいライセンス要件の判定 36
ライセンス要求の作成 37
ライセンスのインストール 38
CLI コマンド 38
Enterprise License Manager のセットアップ 41
[バージョン情報（About）] ウィンドウ 42
[モニタリング（Monitoring）] ビューの設定 42
[ダッシュボード（Dashboard）] の設定 42
[ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの設定 44
[ライセンス管理（License Management）] ビューの設定 46
[ライセンス（Licenses）] ページの設定 46
[ライセンス計画（License Planning）] ページの設定 51
[インベントリ（Inventory）] ビューの設定 57
[管理（Administration）] ビューの設定 59
トラブルシューティング 63
Enterprise License Manager へのログインに使用するユーザ名とパスワードがわからない 64
設定の変更が Enterprise License Manager に表示されない 64
[エラーの原因が不明です（The cause of the error is unknown）] というエラー メッセージが表示される 64
製品インスタンスが変更されたが、ライセンスの使用状況データに反映されない 65
製品インスタンスが削除されたが、ライセンスの使用状況データに引き続き表示される 65
製品インスタンスがライセンスの使用状況データに表示されない 66
管理 GUI の製品インスタンスのデータが、Enterprise License Manager の [製品インスタンス（Product Instances）] ビューのデータと一致しない 66
Enterprise License Manager が超過しても、超過アラートが表示されない 67
Enterprise License Manager に製品の超過が表示されない 67
Enterprise License Manager を別のサーバで復元後、ライセンスが見つからない 67

ライセンスのアップグレード ウィザードを使用してシステムをコンプライアンスに準拠させることができない 68

はじめに

ここでは、このマニュアルの目的および対象読者、ならびに関連資料の入手方法について説明します。

目的

『Enterprise License Manager ユーザ ガイド』は、Enterprise License Manager のインストール、セットアップ、および使用方法について説明します。

対象読者

このマニュアルでは、Enterprise License Manager のインストールや管理を担当するネットワーク管理者およびエンジニア向けの情報について説明します。

関連資料

ライセンス関連のアプリケーションと製品の詳細については、次の資料を参照してください。

- 『*Using Cisco Unified Communications Manager License Count Utility*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Features & Services Guide*』の「Licensing」の章
- 『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Other System Menu Options」の章

テクニカル サポート

シスコでは、技術上のあらゆる問題の支援窓口として Cisco.com を運営しています。 お客様とパートナー企業は、オンライン ツールのマニュアル、トラブルシューティングのヒント、およびサンプル設定を利用できます。 また、Cisco.com に登録済みのお客様は、Cisco Technical Assistance Center の Web サイトからその他のトラブルシューティング ツールも利用可能です。

第 1 章

Enterprise License Manager

Enterprise License Manager では、ライセンスの履行など、ユーザ ベースのラインセスを企業規模で簡単に管理できます。 Enterprise License Manager は、ライセンスの履行、サポートされている製品の割り当てや調整、使用状況や権限付与の企業規模のレポート作成を行います。

（注） ユーザは企業内のライセンス管理方法を定義できます。 企業全体で 1 つの Enterprise License Manager を所有することも、いくつかの Enterprise License Manager を所有し、ニーズに合わせて企業を分割することも可能です。

Enterprise License Manager は、別のサーバや仮想マシンで実行することや、製品のサーバや仮想マシンに共存させることができます。 Cisco Unified Communications Systems の詳細については、www.cisco.com/go/ucsrnd/ を参照してください。

サポートされている製品

Enterprise License Manager は、次の製品をサポートしています。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unity Connection

第 2 章

Enterprise License Manager のインストールとアップグレード

- Enterprise License Manager のインストール，3 ページ
- スタンドアロン型 Enterprise License Manager のインストール，4 ページ
- インストールの開始，5 ページ
- 設定情報の入力，6 ページ
- 基本インストールの実行，7 ページ
- アップグレード情報，10 ページ
- プラットフォーム GUI によるソフトウェアのアップグレード，10 ページ
- ローカル ソースからのアップグレード，10 ページ
- リモート ソースからのアップグレード，11 ページ
- CLI を使用したスタンドアロン型 Enterprise License Manager のアップグレード，13 ページ
- アップグレード後の作業，15 ページ
- COP ファイルのインストール，15 ページ

Enterprise License Manager のインストール

Enterprise License Manager は、Unified CM と Unity Connection の両方またはいずれか一方、Unified Communications Manager Business Edition 5000、Unified Communications Manager Business Edition 6000 をインストールする際に自動的にインストールされます。 Enterprise License Manager は、共存型の設定でこれらのサーバのうちの 1 台で実行可能ですが、スタンドアロン型の設定で実行することもできます。

スタンドアロン型の設定の場合は、Enterprise License Manager を個別にインストールする必要があります。 このインストールでは、後述するとおり Unified CM や Unity Connection と同じインストール構造に従います。

重要 スタンドアロン Enterprise License Manager は Unified CM 9.X または Unity Connection でサポートされるのと同じ OVA または MCS サーバ タイプをサポートします。

重要 仮想環境では、Enterprise License Manager は正常に機能するために固定 MAC アドレスを必要とします。

スタンドアロン型EnterpriseLicenseManagerのインストール

ここでは、スタンドアロン型のサーバまたは仮想マシンに Enterprise License Manager をインストールする方法について説明します。 オペレーティング システムとアプリケーションのインストールは、1 つのインストール プログラムを実行して行います。 このマニュアルでは、このインストール プログラムを使用する手順を、次の主要なトピックに分けて説明します。

- インストールの開始
- 設定情報の入力
- 基本インストールの実行
- 最初のノードの設定

インストール ウィザードのナビゲーション

インストール ウィザードでの操作方法については、次の表を参照してください。

表 *1*：インストール ウィザードのナビゲーション

機能	キー
次のフィールドへ移動	**Tab**
前のフィールドへ移動	**Alt+Tab**
オプションを選択する	スペース バーまたは **Enter**
リスト内のスクロール	↑または↓

機能	キー
前のウィンドウに戻る	スペース バーまたは Enter で [戻る（Back）] を選択（使用可能な場合）
ウィンドウについてのヘルプ表示	スペース バーまたは Enter で [Help] を選択（使用可能な場合）

インストールの開始

手順

ステップ 1 インストール DVD をトレイに入れてサーバを再起動し、DVD からサーバを起動します。 サーバの起動シーケンス完了後、[DVD が検出されました（DVD Found）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 メディア チェックを実行する場合は、[はい（Yes）] を選択します。メディア チェックをスキップする場合は、[いいえ（No）] を選択します。
メディア チェックは DVD の整合性をチェックします。 以前にメディア チェックをパスした DVD の場合は、メディア チェックのスキップを選択できます。

ステップ 3 [はい（Yes）] を選択してメディア チェックを実行すると、[メディア チェック結果（Media Check Result）] ウィンドウが表示されます。 次のタスクを実行します。

- [メディア チェック結果（Media Check Result）] に [合格（Pass）] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。
- メディアがメディア チェックに不合格だった場合、Cisco.com から改めてダウンロードするか、別の DVD をシスコから直接入手します。

ステップ 4 システムが正しく設定されていることを確認するため、システム インストーラにより以下のハードウェア チェックが実行されます。 インストーラによってハードウェア設定が変更される場合は、システムを再起動するよう求められます。 再起動中、DVD はドライブに入れたままにしておきます。
インストール プロセスでは、最初にドライバが正しいかどうかの確認が行われ、次のような警告が表示される場合があります。

```
No hard drives have been found. You probably need to manually choose device drivers for
install to succeed. Would you like to select drivers now?
```

ステップ 5 インストールを続行するには、[はい（Yes）] を選択します。
次に、サポートされているハードウェア プラットフォームがあるかどうか確認されます。 サーバがハードウェア要件を厳密に満たしていない場合は、インストール プロセスで重大なエラーが発生して失敗します。 エラー内容が正しくないと思われる場合は記録して、シスコのサポートへ報告してください。

インストール プロセスでは、次に、RAID 設定と BIOS 設定が確認されます。

（注） このステップを繰り返す場合は、もう一度 [はい（Yes）] を選択してください。

インストールプログラムでBIOSアップデートのインストールが必要になると、システムのリブートが必要なことを示す通知が表示されます。 任意のキーを押して、インストールを続行します。

ハードウェアのチェックが完了すると、[製品の導入タイプの選択（Product Deployment Selection）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [製品の導入タイプの選択（Product Deployment Selection）] ウィンドウで [Cisco Enterprise License Manager] を選択します。

ステップ 7 ソフトウェアが現在サーバにインストールされている場合は[ハード ドライブの上書き（Overwrite Hard Drive）] ウィンドウが表示され、ハード ドライブ上の現在のソフトウェアのバージョンとDVD 上のバージョンとが表示されます。 インストールを続行する場合は [はい（Yes）]、中止する場合は [いいえ（No）] を選択します。
注意：[ハード ドライブの上書き（Overwrite Hard Drive）] ウィンドウで [はい（Yes）] を選択した場合、ハード ドライブ上の既存のデータはすべて上書きされて消去されます。

[プラットフォーム インストール ウィザード（Platform Installation Wizard）] が表示されます。 設定のインストールを開始できます。

ステップ 8 次のオプションのいずれかを選択します。

- 設定情報を手動で入力し、設定済みのソフトウェアをインストールプログラムによってサーバにインストールする場合は、[続行（Proceed）] を選択して、この手順を続行します。
- ソフトウェアを手動で設定する前にインストールするには、[スキップ（Skip）]を選択して、「設定情報の入力」の手順に進みます。 この場合、インストール プログラムによりソフトウェアがインストールされてから、手動で設定するように指示されます。 まず、すべてのサーバにアプリケーションをインストールしてから、後で設定情報を入力する場合は、[スキップ（Skip）] を選択できます。 この方法を使用した場合は、他の方法よりもインストールに時間がかかる可能性があります。
- インストールを取り消すには、[キャンセル（Cancel）] を選択します。

ステップ 9 [基本インストール（Basic Install）] ウィンドウで [続行（Continue）] を選択し、DVD に収録されているソフトウェアバージョンをインストールするか、プレインストール ソフトウェアの設定を行って、「基本インストールの実行」セクションに進みます。

設定情報の入力

[プラットフォーム インストール ウィザード（Platform Installation Wizard）] ウィンドウで [スキップ（Skip）] を選択した場合は、ここから開始します。

手順

ステップ 1 システムの再起動後、[既存インストール設定（Preexisting Installation Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [プラットフォーム インストール ウィザード（Platform Installation Wizard）] を続行する場合は、[続行（Proceed）] を選択します。

ステップ 3 [基本インストール（Basic Install）] ウィンドウで [続行（Continue）] を選択します。 「基本インストールの実行」セクションに進みます。

基本インストールの実行

手順

ステップ 1 [タイムゾーンの設定（Timezone Configuration）] が表示されたら、サーバの適切なタイム ゾーンを選択して [OK] を選択します。
[自動ネゴシエーション設定（Auto Negotiation Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 インストール プロセスでは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード（NIC）の速度と二重化の設定を自動的に設定できます。 この設定はインストール後に変更できます。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、[はい（Yes）]をクリックしてステップ 5 に進みます。

[MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウが表示されます。

このオプションを使用する場合は、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションに対応している必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、[いいえ（No）] をクリックしてステップ 3 に進みます。

[NIC 速度およびデュプレックス設定（NIC Speed and Duplex Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 自動ネゴシエーションの無効を選択した場合は、ここで適切な NIC の速度と二重化の設定を手動で選択し、[OK] を選択して続行します。
[MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウでは、MTU サイズをオペレーティング システムのデフォルトから変更できます。 最大伝送単位（MTU）は、ホストがネットワーク上で送信する最

大のパケットをバイト単位で表したものです。ネットワークのMTU設定が不明の場合は、デフォルト値（1500 バイト）を使用してください。
注意：MTUサイズの設定が不適切な場合、ネットワークのパフォーマンスが低下する場合があります。

- デフォルト値（1500 バイト）を受け入れる場合は、[いいえ（No）] を選択します。
- MTU サイズをオペレーティング システムのデフォルトから変更する場合は [Yes] を選択し、新しい MTU サイズを入力して [OK] を選択します。

[DHCP 設定（DHCP Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ネットワーク設定では、ノードにスタティック ネットワーク IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）を使用するかを選択できます。 スタティック IP アドレスの使用を推奨します。 DHCP オプションを選択する場合は、DHCP サーバによって IP アドレスが動的に割り当てられます。

- ネットワーク内に設定されている DHCP サーバがない場合に DHCP を使用するときは、[はい（Yes）] を選択します。 ネットワークが再開され、[管理者ログイン設定（Administrator Login Configuration）] ウィンドウが表示されます。 ステップ 8 に進みます。
- ノードにスタティック IP アドレスを設定する場合は、[いいえ（No）] を選択します。 [スタティック ネットワーク設定（Static Network Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 DHCP を使用しないことを選択した場合は、静的ネットワーク設定の値を入力して [OK] を選択します。 ノード設定データについては『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
[DNS クライアント設定（DNS Client Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 DNS を有効にするには [Yes] を選択し、DNS クライアントの情報を入力して [OK] を選択します。 ノード設定データのフィールド説明については、『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
新しい設定情報を使用してネットワークが再起動し、[管理者ログイン設定（Administrator Login Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 プラットフォーム管理者のログイン情報とパスワード情報を入力します。 ノード設定データのフィールド説明については、『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
プラットフォーム管理者のログインでは、アルファベットで始まる6文字以上の長さが必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理、コマンドライン インターフェイス、およびディザスタ リカバリ システムにログインするには、プラットフォーム管理者のログイン情報が必要です。

[証明書情報（Certificate Information）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 証明書署名要求を入力して、[OK] を選択します。

ステップ 10 [NTP クライアント設定（Network Time Protocol Client Configuration）] ウィンドウが開きます。

最初のノードで正確なシステム時刻を確保できるように、シスコは外部 NTP サーバの使用を推奨します。 外部 NTP サーバは Stratum 9 以上（つまり Stratum 1 ～ 9）であるようにします。 クラスタの後続ノードは、その時刻を最初のノードから取得します。仮想マシンに Cisco Unity Connection をインストールする場合は、外部 NTP サーバを指定する必要があります。

ステップ 11 外部 NTP サーバを設定するか、システム時刻を手動で設定するのかを選択します。

- 外部 NTP サーバを設定するには [Yes] を選択し、1 台以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバ プール名を入力します。 NTP サーバは 5 台まで設定可能で、3 台以上使用することを推奨します。 インストールを続行するには、[続行（Proceed）] を選択します。

システムは NTP サーバと接続し、自動でハードウェア クロックに時刻を設定します。

メモ：[テスト（Test）] ボタンが表示されている場合は、[テスト（Test）] をクリックして NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。

- システム時刻を手動で設定するには [No] を選択し、適切な日時を入力してハードウェア クロックを設定します。 インストールを続行するには、[OK] を選択します。

[セキュリティ設定（Security Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 12 セキュリティ パスワードを入力します。ノード設定データのフィールド説明については、『Installing Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
メモ：セキュリティ パスワードでは、英数字で始まる 6 文字以上の長さが必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。 システムでは、このパスワードを使用して、ノード間の通信が許可されます。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

ステップ 13 [OK] を選択します。 [アプリケーション ユーザ設定（Application User Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 アプリケーション ユーザ名とパスワードを入力します（『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』を参照）。 確認のため、パスワードを再入力します。

ステップ 15 [OK] を選択します。 [プラットフォーム設定の確認（Platform Configuration Confirmation）] ウィンドウが開きます。

ステップ 16 インストールを続行するには、[OK] を選択します。プラットフォーム設定を変更する場合は、[Back] を選択します。
システムがソフトウェアのインストールと設定を行います。 DVD ドライブがイジェクトされ、サーバが再起動します。 DVD を再挿入しないでください。

ステップ 17 インストール プロセスが完了すると、管理者アカウントとパスワードでログインするように求めるプロンプトが表示されます。

ステップ 18 「Post-Installation Tasks」のセクションに示されているインストール後の作業を完了します。

ステップ 19 完了すると、Enterprise License Manager が正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されます。

アップグレード情報

次の情報を使用して、スタンドアロン構成でソフトウェアをアップグレードします。

プラットフォームGUIによるソフトウェアのアップグレード

ここでは、次のいずれかの方法を使用して、プラットフォーム GUI からアップグレードする手順について説明します。

- ローカル ソースからのアップグレード
- リモート ソースからのアップグレード

（注） Cisco Unified オペレーティング システムの管理にアクセスしている間は、ブラウザの制御機能（表示の更新や再読み込みなど）を使用しないでください。 代わりに、インターフェイスに用意されているナビゲーション制御を使用します。

ローカル ソースからのアップグレード

手順

ステップ 1 シスコから提供されるアップグレード ディスクが手元にない場合は、ISO イメージ形式でダウンロードしたアップグレード ファイルを DVD に書き込んで、アップグレード ディスクを作成します。

（注） DVD に .iso ファイルをコピーしただけでは、正しく動作しません。 ほとんどの市販のディスク作成アプリケーションで、ISO イメージ ディスクを作成できます。

ステップ 2 新しい DVD をアップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。

ステップ 3 [管理設定（Administration Settings）] > [OS Admin] ページで、Cisco Unified Communications OS の管理ページにログインします。

ステップ 4 [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] > [インストール/アップグレード（Install/Upgrade）] の順に選択します。
[ソフトウェア インストール/アップグレード（Software Installation/Upgrade）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [ソース（Source）] リストから [DVD] を選択します。

ステップ 6 [ディレクトリ（Directory）] フィールドにスラッシュ（/）を入力します。

ステップ 7 [次へ（Next）] をクリックしてアップグレード プロセスを続行します。

ステップ 8 インストールするアップグレード バージョンを選択して、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 9 次のウィンドウでダウンロードの進行状況をモニタします。

ステップ 10 アップグレードをインストールし、アップグレードしたパーティションに自動的に再起動する場合は、[アップグレード後に新バージョンに切り替える（システム再起動）（Switch to new version after upgrad (system reboots)）] を選択します。 システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが起動します。

ステップ 11 アップグレードをインストールして、後でアップグレードされたパーティションに手動で再起動する場合は、次の手順を実行します。

a) [アップグレード後に新バージョンに切り替えない（システム再起動なし）（Do not switch to new version after upgrade (no system reboots)）] を選択します。

b) [次へ（Next）] をクリックします。アップグレードのステータスを示すウィンドウに、アップグレード ログが表示されます。

c) インストールが完了したら、[終了（Finish）] をクリックします。

d) システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定（Settings）]>[バージョン（Version）] を選択して、[バージョンの切り替え（Switch Version）] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが起動します。

リモート ソースからのアップグレード

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからソフトウェアをアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 アップグレード ファイルをアップグレード中のサーバからアクセス可能な FTP または SFTP サーバ上に置きます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理にログインします。

ステップ 3 [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] > [インストール/アップグレード（Install/Upgrade）] の順に選択します。
[ソフトウェア インストール/アップグレード（Software Installation/Upgrade）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [ソース（Source）] リストから [リモート ファイルシステム（Remote Filesystem）] を選択します。

ステップ 5 パッチ ファイルを格納したリモート システム上のディレクトリ パスを、[ディレクトリ（Directory）] フィールドに入力します。 アップグレード ファイルが Linux サーバまたは UNIX サーバ上にある場合は、ディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。 たとえば、アップグ

レード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、/patches と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバにある場合は、必ず FTP または SFTP サーバに接続し、次の正しい構文を使用してください。

- パスはフォワード スラッシュ（/）で開始し、パス全体でフォワード スラッシュを使用します。
- パスは、サーバの FTP または SFTP ルート ディレクトリから始める必要があります。C: などのドライブ レターで始まる Windows 絶対パスは入力できません。

ステップ 6 [サーバ（Server）] フィールドにサーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 7 [ユーザ名（User Name）] フィールドに、リモート サーバのユーザ名を入力します。

ステップ 8 [ユーザ パスワード（User Password）] フィールドにリモート サーバのパスワードを入力します。

ステップ 9 [転送プロトコル（Transfer Protocol）] フィールドで、転送プロトコルを選択します。

ステップ 10 [次へ（Next）] をクリックしてアップグレード プロセスを続行します。

ステップ 11 インストールするアップグレード バージョンを選択して、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 12 次のウィンドウでダウンロードの進行状況をモニタします。
アップグレード プロセスの進行中にサーバとの接続を失った場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] メニューに再度アクセスしようとすると、次のメッセージが表示されることがあります。

```
Warning: Another session is installing software, click Assume Control to take over the
installation.
```

セッションを引き継ぐ場合は、[制御の取得（Assume Control）] を選択します。

[制御の取得（Assume Control）] が表示されない場合は、リアルタイム監視ツールでアップグレードをモニタすることもできます。

ステップ 13 アップグレードをインストールし、アップグレードしたパーティションに自動的に再起動する場合は、[アップグレード後に新バージョンに切り替える（システム再起動）（Switch to new version after upgrad (system reboots)）] を選択します。 システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが起動します。

ステップ 14 アップグレードをインストールして、後でアップグレードされたパーティションに手動で再起動する場合は、次の手順を実行します。

a) [アップグレード後に新バージョンに切り替えない（システム再起動なし）（Do not switch to new version after upgrade (no system reboots)）] を選択します。
b) [次へ（Next）] をクリックします。アップグレードのステータスを示すウィンドウに、アップグレード ログが表示されます。
c) インストールが完了したら、[終了（Finish）] をクリックします。
d) システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定（Settings）]>[バージョン（Version）] を選択して、[バージョンの切り替え（Switch Version）] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが起動します。

CLIを使用したスタンドアロン型EnterpriseLicenseManagerのアップグレード

CLI コマンドを使用してローカル ソースまたはリモート ソースからアップグレードを開始するには、次の手順を実行します。

ローカル ソースからのアップグレード

はじめる前に

シスコから提供されるアップグレード ディスクが手元にない場合は、ISO イメージ形式でダウンロードしたアップグレード ファイルを DVD に書き込んで、アップグレード ディスクを作成します。

DVD に .iso ファイルをコピーしただけでは、正しく動作しません。 ほとんどの市販のディスク作成アプリケーションで、ISO イメージ ディスクを作成できます。

手順

ステップ 1 新しい DVD をアップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。

ステップ 2 次の例に示すように、**utils system upgrade initiate** コマンドを入力します。

例：
```
admin:utils system upgrade initiate
```

次のオプションが表示されます。
```
Warning: Do not close this window without first exiting the upgrade command.
Source:
1) Remote Filesystem via SFTP
2) Remote Filesystem via FTP
3) Local DVD/CD
q) quit
Please select an option (1 - 3 or "q" ):
```

ステップ 3 オプション 3 を選択します。
次のオプションが表示されます。
```
1) UCSInstall_UCOS_9.0.0.98000-9004.iso
q) quit
Please select an option (1 - 3 or "q" ):
```

ステップ 4 アップグレード ファイルをダウンロードするには、オプション 1 を選択します。
次のメッセージが表示されます。
```
Accessing the file. Please wait...
Checksumming the file...
Validating the file...
A system reboot is required when the upgrade process completes or is canceled.
This will ensure services affected by the upgrade process are functioning properly.
```

```
Downloaded: UCSInstall_UCOS_9.0.0.98000-9004.iso
File version: 9.0.0.98000-9004
File checksum: 86:55:58:dc:c4:3a:82:88:ff:45:ae:e3:33:ca:c4:41
```

ステップ 5 アップグレードに成功した場合は、バージョンを自動的に切り替えるために yes と入力します。

```
Automatically switch versions if the upgrade is successful (yes/no): yes
```

ステップ 6 インストールを開始するには、yes と入力します。

```
Start installation (yes/no): yes
```

リモート ソースからのアップグレード

手順

ステップ 1 次の例に示すように、**utils system upgrade initiate** コマンドを入力します。

例：

```
admin:utils system upgrade initiate
```

次のオプションが表示されます。

```
Warning: Do not close this window without first exiting the upgrade command.
Source:
1) Remote Filesystem via SFTP
2) Remote Filesystem via FTP
3) Local DVD/CD
q) quit
Please select an option (1 - 3 or "q" ):
```

ステップ 2 オプション 1 を選択します。

ステップ 3 プロンプトが表示されたら、ディレクトリ、サーバ、ユーザ名、パスワード情報を入力します。

例：

```
Directory: /ws/kradhal-rcd/kradhal-lic-cct-ccm/iso
Server: se042c-94-193
User Name: kradhal
Password: ********
Please enter SMTP Host Server (optional):
Checking for valid upgrades. Please wait...
```

a) （任意） アップグレードが完了したら、電子メール通知を受信するには、SMTP ホスト サーバを入力します。

次のオプションが表示されます。

```
Available options and upgrades in
"se042c-94-193:/ws/kradhal-rcd/kradhal-lic-cct-ccm/iso":
1) UCSInstall_UCOS_9.0.0.98000-9004.iso
2) ciscocm.dst-updater.2011h-1.el5.9.0.0.cop
3) cmterm-devicepack9.0.0.98000-9004.cop
q) quit
```

```
Please select an option (1 - 3 or "q" ):
```

ステップ 4 アップグレード ファイルをダウンロードするには、オプション 1 を選択します。
次のメッセージが表示されます。

```
Accessing the file. Please wait...
Downloaded 4829 MB.
Checksumming the file...
Validating the file...
A system reboot is required when the upgrade process completes or is canceled.
This will ensure services affected by the upgrade process are functioning properly.
Downloaded: UCSInstall_UCOS_9.0.0.98000-9004.iso
File version: 9.0.0.98000-9004
File checksum: 86:55:58:dc:c4:3a:82:88:ff:45:ae:e3:33:ca:c4:41
```

ステップ 5 アップグレードに成功した場合は、バージョンを自動的に切り替えるために yes と入力します。

```
Automatically switch versions if the upgrade is successful (yes/no): yes
```

ステップ 6 インストールを開始するには、yes と入力します。

```
Start installation (yes/no): yes
```

アップグレード後の作業

アップグレードの完了後に、次の作業を実行してください。

- [バージョン情報（About）] ボックスのバージョン番号を確認し、予想どおりの番号であることを確かめます。
- [インベントリ（Inventory）] > [製品インスタンス（Product Instances）] > [今すぐ同期（Synchronize Now）] を選択して同期を実行します。
- ダッシュボードを確認し、アラートが発生していないことを確かめます。

COP ファイルのインストール

Cisco Option（COP）ファイルをインストールするには、次の手順を実行します。 COP ファイルは追加機能（ローカライズなど）を有効化するために使用されます。

手順

ステップ 1 Cisco.com から COP ファイルを取得して保存します（「テクニカル サポート」 > 「ダウンロード」を選択）。

ステップ 2 COP ファイルをアップグレード中のサーバからアクセス可能な FTP または SFTP サーバ上に置きます。

ステップ 3 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理にログインします。

ステップ 4 [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] > [インストール/アップグレード（Install/Upgrade）] の順に選択します。
[ソフトウェア インストール/アップグレード（Software Installation/Upgrade）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [ソース（Source）] リストから [リモート ファイルシステム（Remote Filesystem）] を選択します。

ステップ 6 パッチ ファイルを格納したリモート システム上のディレクトリ パスを、[ディレクトリ（Directory）] フィールドに入力します。 アップグレード ファイルが Linux サーバまたは UNIX サーバ上にある場合は、ディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。 たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、/patches と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバにある場合は、必ず FTP または SFTP サーバに接続し、次の正しい構文を使用してください。

a) パスはフォワード スラッシュ（/）で開始し、パス全体でフォワード スラッシュを使用します。

b) パスはサーバの FTP または SFTP ルート ディレクトリから始める必要があるため、Windows の絶対パスを入力することはできません。

ステップ 7 [サーバ（Server）] フィールドにサーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 8 [ユーザ名（User Name）] フィールドに、リモート サーバのユーザ名を入力します。

ステップ 9 [ユーザ パスワード（User Password）] フィールドにリモート サーバのパスワードを入力します。

ステップ 10 [転送プロトコル（Transfer Protocol）] フィールドで、転送プロトコルを選択します。

ステップ 11 [ソフトウェアの場所（Software Location）] の [オプション/アップグレード（Options/Upgrades）] からインストールする COP ファイルを選択し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 12 次のウィンドウでダウンロードの進行状況をモニタします。
アップグレード プロセスの進行中にサーバとの接続を失った場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] メニューに再度アクセスしようとすると、次のメッセージが表示されることがあります。

```
Warning: Another session is installing software; click Assume Control to take over the
installation.
```

セッションを引き継ぐ場合は、[制御の取得（Assume Control）] を選択します。

ステップ 13 ダウンロードが完了したら、ファイル チェックサムの詳細を確認し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 14 次のウィンドウでインストールの進行状況をモニタします。

（注） COP ファイルのインストールでは、システムの再起動が必要になる場合があります。この再起動要件はログの出力セクションに記録されます。 この再起動はオフピーク期間に実行することを推奨します。

第 3 章

Enterprise License Manager の操作

- Enterprise License Manager の考慮事項，19 ページ
- Enterprise License Manager へのログイン，20 ページ
- 製品インスタンスの追加，20 ページ
- 製品インスタンスの編集，21 ページ
- 製品インスタンスの削除，22 ページ
- システム ステータス情報，22 ページ
- [ダッシュボード（Dashboard）] ビュー，23 ページ
- [ライセンスの使用状況（License Usage）] ビュー，24 ページ
- ライセンスの履行，25 ページ
- [Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィザードを使用してライセンスを移行する，28 ページ
- ライセンスの追加ウィザードを使用した新しいライセンス要件の判定，36 ページ
- ライセンス要求の作成，37 ページ
- ライセンスのインストール，38 ページ
- CLI コマンド，38 ページ

Enterprise License Manager の考慮事項

Enterprise License Manager の使用を開始する場合、次の手順に従います。

- Enterprise License Manager にログインします。 Enterprise License Manager へのログイン，（20 ページ）を参照してください。
- 製品インスタンスを追加します。 製品インスタンスの追加，（20 ページ）を参照してください。

- [ダッシュボード（Dashboard）] または [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページを使用して、製品に必要なライセンスを判断します。 [ダッシュボード（Dashboard）] や [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの詳細については、システム ステータス情報, （22 ページ）を参照してください。
- Enterprise License Manager の管理対象の製品インスタンスが 9.0 より前のバージョンからアップグレードされている場合は、既存のライセンスを移行します。 ライセンスのアップグレード ウィザードを使用したライセンスの移行を参照してください。
- Enterprise License Manager を新しいスタンドアロン型のシステムにインストールした場合は、新しいライセンスの履行を実行します。 ライセンスの追加ウィザードを使用した新しいライセンス要件の判定, （36 ページ）を参照してください。

Enterprise License Manager へのログイン

手順

ステップ 1 インストール済みアプリケーションの一覧から [Enterprise License Manager] を選択します。

ステップ 2 ユーザ名とパスワードを入力します。 [ログイン（Login）] をクリックします。

（注） 初回ログイン時には、インストール中に作成したアプリケーションのユーザ名とパスワードが必要です。 Enterprise License Manager へのサインイン時に使用するユーザ名とパスワードがわからない場合は、トラブルシューティング, （63 ページ）を参照してください。

製品インスタンスの追加

次の手順では、Enterprise License Manager で製品インスタンスを追加する方法を説明します。

重要 Cisco Unified Communications Manager Release 9.0（またはそれ以降）にアップグレードした後は、DLU をインストールできません。 現在インストールされている DLU を使用するには、アップグレードする前に Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールします。

重要 クラスタのパブリッシャ ノードだけを製品インスタンスとして追加できます。 ユーザを追加しようとすると、エラーが発生します。

手順

ステップ 1 Enterprise License Manager にログインします。

ステップ 2 [インベントリ（Inventory）] > [製品インスタンス（Product Instances）] を選択します。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。 製品インスタンスの追加ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 次の情報を入力します。

- 名前（Name）
- 説明（Description）（オプション）
- 製品タイプ（Product Type）
- ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address）
- ユーザ名（Username）
- パスワード（Password）

（注） クレデンシャルとは、製品の OS 管理者のユーザ名とパスワードのことです。

ステップ 5 [OK] をクリックして、製品インスタンスを追加します。

ステップ 6 製品インスタンスが追加された時点で、製品が [製品インスタンス（Product Instances）] テーブルに表示されます。

（注） [製品インスタンス（Product Instances）] ページで [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンをクリックし、新しい製品のライセンス情報を取得します。 同期しない場合は、最新の製品インスタンス情報が Enterprise License Manager に表示されません。

（注） 9.0 より前のライセンスを持つすべての製品インスタンスについては、バージョンフィールドの横にアスタリスクが表示されます。 Enterprise License Manager で 9.0 以前のライセンスを使用できるようにするには、ライセンスを移行する必要があります。 ライセンスの移行については、ライセンスのアップグレード ウィザードを使用したライセンスの移行 を参照してください。

（注） Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 を追加する場合は、2 つの製品インスタンスを追加する必要があります。 ステップ 4 で初めて情報を入力する際は、製品タイプとして [Unified CM] を選択します。 次に製品タイプを追加するとき、一意の名前を入力し、製品タイプとして [Unity Connection] を選択します。 その他の情報についてはすべて同じです。

製品インスタンスの編集

次の手順では、Enterprise License Manager で製品インスタンスを編集する方法を説明します。

手順

ステップ 1 製品インスタンスを編集するには、[製品インスタンス（Product Instance）] テーブルからインスタンスを選択します。

ステップ 2 [製品インスタンス（Product Instance）] 詳細ページの [一般（General）] タブで、製品インスタンスの推奨設定を編集します。

ステップ 3 製品インスタンスのホスト名または IP アドレスを変更する場合は、ホスト名または IP アドレスを変更する前に、Enterprise License Manager から製品インスタンスを削除する必要があります。ホスト名または IP アドレスの変更が完了した時点で、再度 Enterprise License Manager を追加できます。

製品インスタンスの削除

手順

ステップ 1 削除する製品インスタンスの隣にあるオプション ボタンを選択します。

ステップ 2 [削除（Delete）] ボタンをクリックします。

ステップ 3 製品インスタンスが完全に削除されることを示し、続行するかキャンセルするかを確認するメッセージが表示されます。 [続行（Continue）] をクリックします。

ステップ 4 製品インスタンスが正常に削除されたことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 正常に削除されたら [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンをクリックし、システムの全ライセンス タイプに関する最新のライセンス情報を取得します。

システム ステータス情報

Enterprise License Manager のインターフェイスで [モニタリング（Monitoring）] セクションの次のビューを使用すると、システム ステータスを監視できます。

- [ダッシュボード（Dashboard）] ビュー, （23 ページ）
- [ライセンスの使用状況（License Usage）] ビュー, （24 ページ）

[ダッシュボード（Dashboard）] ビュー

ダッシュボードには、システムの概要が示されます。 ダッシュボードのリンクから、Enterprise License Manager 内の関連ページに移動できます。

（注） Enterprise License Manager を初めてインストールした場合は、ライセンス ファイルがインストールされるまでデモ モードで動作します。 Enterprise License Manager がデモ モードの間は、GUI の上部に警告が表示されます。

（注） Enterprise License Manager がデモ モードである場合、ライセンス ファイルがまだインストールされていないことを意味します。 ライセンス ファイルの初回インストール中に、Enterprise License Manager が Cisco ライセンス管理部門に登録され、デモ モードが終了します。 Enterprise License Manager がデモ モードの間は、Enterprise License Manager の管理対象の製品インスタンスは適合状態にありません。 製品タイプごとに（Unified CM、Unity Connection など）独自のバージョンの「デモ モード」が存在し、Enterprise License Manager のデモ モードとは関係なく動作します。

ダッシュボードには、次の項目があります。

概要（Overview）

製品インスタンス、最後にライセンスを更新した日時、最後に同期した日時に関する情報が示されます。

ライセンスの使用状況（License Usage）

製品タイプと、これらの各製品に割り当てられたライセンス数が一覧表示されます。

ライセンス アラート（License Alerts）

製品タイプごとのアラートと、そのアラートのステータスが一覧表示されます。 次のアラートが示されます。

- 適合していないライセンス タイプ。
- 有効期限が近づいているライセンス。

同期の失敗（Synchronization Failures）

製品インスタンス名、失敗の理由、前回正常に同期した日時が一覧表示されます。

[ライセンスの使用状況（License Usage）] ビュー

[ライセンスの使用状況（License Usage）] ページは、システムにインストールされているライセンスを特定し、前回の同期時にライセンスがどのように使用されていたのかを識別します。[ライセンスの使用状況（License Usage）] ページでは、次の 2 つのビューを利用できます。

- テーブル ビュー（Table View）
- チャート ビュー（Chart View）

テーブル ビュー（Table View）

[テーブル ビュー（Table View）] には、各ライセンス タイプの次の情報が表示されます。

- 使用中のライセンス タイプ
- 製品スコープ
- 必要なライセンス数
- インストール済みのライセンス数
- 未使用のライセンス数
- そのライセンス タイプのステータス（適合、違反など）

システムにインストールされているライセンスの 1 個を選択して、そのプロパティや使用状況を確認することもできます。 [ライセンス タイプ（License Type）] 詳細ページには次の情報が含まれています。

- ライセンスの説明（License Description）
- 使用状況チャート（Usage Chart）
- インスタンス別の使用状況（Usage by Instance）
- インストール済みライセンス（タイプ別）（Installed Licenses by Type）

ライセンス タイプをまとめて表示する場合は、[ライセンスの説明（License Description）] セクションの [すべてのライセンス タイプの説明とデバイスの分類の表示（新しいウィンドウ）（View all license type descriptions on Cisco.com (new window)）] リンクをクリックします。

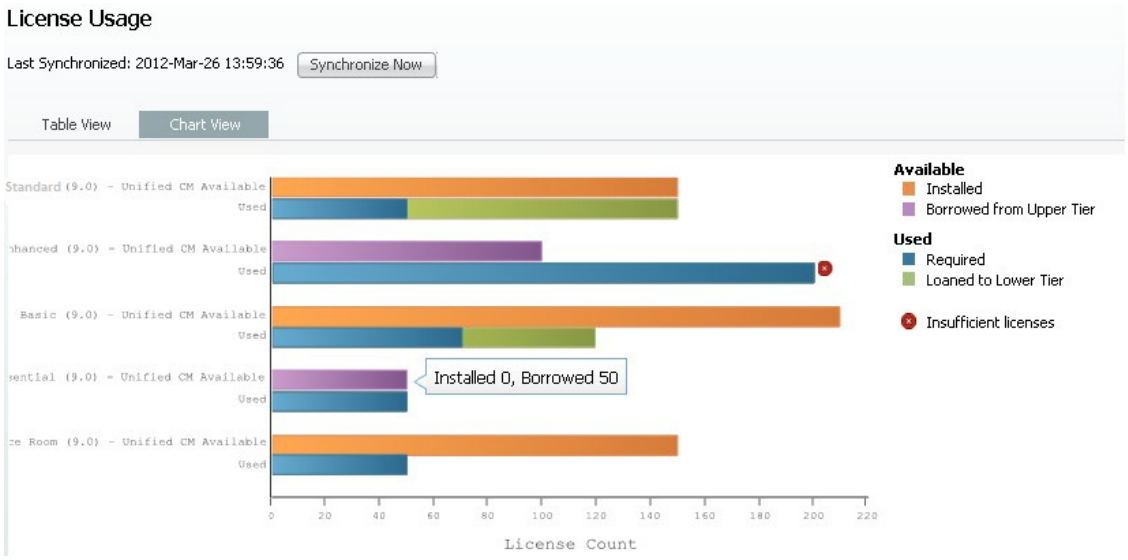
チャート ビュー（Chart View）

[チャート ビュー（Chart View）] タブには、特定の製品に使用されるライセンス数が図示されます。 チャートの各バーの上にマウスを置くと、ライセンス数の情報が表示されます。 下の図は、次に該当するライセンス数をグラフ化した [チャート ビュー（Chart View）] です。

- インストール済み
- 上位ティアから借用

- 必要数
- 下位ティアに貸与

また、[チャート ビュー（Chart View）] では、ライセンスが不足しているインスタンスに赤の「x」印が付けられます。



代用とティア化

ライセンス タイプは階層に分かれています。上位層のライセンスは、下位層のライセンスに比べて多くの機能を提供します。[ライセンスの使用状況（License Usage）] の [テーブル ビュー（Table View）] と [チャート ビュー（Chart View）]（上図を参照）では、階層の最上位から最下位の順にタイプが表示されます。

（注） TelePresence Room は他のライセンス タイプとは別で、他から借りることはできません。

ライセンスの代用とは、超過になる下位ティアのライセンス タイプの代わりに上位ティアのタイプを使用できる、Enterprise License Manager の機能です。 上図の [チャート ビュー（Chart View）] の例では、50 個の予備 Basic ライセンスが Essential に貸与されています。 この例では、この 50 個の予備 Basic ライセンスによって、Essential 全体の超過が補われています。 ユーザが Essential ライセンスを追加するライセンス ファイルをインストールすると、今後 Basic が必要になったとき、予備 Basic ライセンスを利用できるようになります。

ライセンスの履行

製品インスタンスが追加されたら（「製品インスタンスの追加」を参照）、続いてライセンス要件を確認し、それに応じて計画を立てる必要があります。

（注） 最初に [ダッシュボード（Dashboard）] または [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページを確認すると、製品に必要なライセンスを判断できます。 [ダッシュボード（Dashboard）] や [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの詳細については、「システム ステータス情報」を参照してください。

Enterprise License Manager には、ライセンスの履行を実行する 2 つのオプションがあります。

- 電子履行
- 手動履行

電子履行は、2 つの中で迅速かつ容易なオプションです。しかし、インターネット接続が利用できない導入環境（ロックダウンされたラボなど）では、手動履行が唯一のオプションである場合があります。

電子履行

電子履行によって新しいライセンスを追加するには、次の手順を使用します。

1. Enterprise License Manager にログインします。
2. [ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス（Licenses）] を選択します。
3. すでに選択されない場合は、[有効（Enable）] ボタンをクリックして電子履行を有効にします。
4. [ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] を選択します。 [ライセンスの追加/インストール（Add/Install Licenses）] ウィンドウが表示されます。

（注） [ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] オプションの横に [その他の履行オプション（Other Fulfillment options）] というタイトルの別のオプションがあります。 このオプションの下にあるドロップダウン矢印を選択すると、[ライセンスをファイルから履行（Fulfill Licenses from File）] と [ライセンス要求の作成（Generate License Request）] の 2 つのオプションが表示されます。 これらのオプションは、手動履行で使用できるオプションと同じものです。

5. [新しい PAK からライセンスを追加（Add licenses from a new PAK）] オプションを選択し、製品認証キー（PAK）コードを入力します。

   Enterprise License Manager で PAK を入力したことがある場合は、2 番目のオプション [部分履行 PAK コードをサポートするインストール済みの PAK からライセンスを追加（Add licenses from an already-installed PAK that supports partial fulfillment PAK Codes）] を選択できます。 このオプションを選択した場合は、ドロップダウン メニューから既存の PAK コードを選択します。
6. [次へ（Next）] ボタンをクリックします。 Cisco.com のアカウント情報を求められた場合は、Cisco.com に登録したときに入力した情報を入力します。
7. [OK] ボタンをクリックします。 [内容を確認（Review Contents）] セクションが表示されます。

8 PAK でライセンスは SKU 名別に表示されます。 各ライセンスの数はいくつかの見出しの下の分類され、使用中のライセンスの数と使用可能なライセンスの数を示します。

ライセンス タイプをクリックして、[インストール（Install）] カラムでインストールするライセンスの数を入力することによって、必要な数のライセンスをインストールできます。

重要 場合によっては、部分履行を実行するオプションがない可能性があります。 この場合、すべてのライセンスがインストールされます。

（注） [内容を確認（Review Contents）] セクションにライセンスが [すでに履行済み（Already Fulfilled）] とリストされている場合、これらのライセンスはこの Enterprise License Manager または別の Enterprise License Manager によって履行されています。

9 [次へ（Next）] ボタンをクリックします。[ライセンス オプション（License Option）] セクションが表示されます。説明（オプション）を入力できます。また、オプションを選択してドロップダウン リストからライセンス要約の名前を選択することによって、このトランザクションを追加/アップグレードの保存されているライセンス要約に関連付けることができます。

10 チェックボックスを選択し、エンドユーザ ライセンス契約書の条項に同意します。

11 [終了（Finish）] ボタンをクリックします。

12 電子履行プロセスが正常に完了すると、新しい履行が [ライセンス（Licenses）] テーブルに表示されます。

PAK の履行を調整

電子履行モードで、次の手順を使用して、その Enterprise License Manager ですでに部分履行された特定の PAK の部分履行を実行できます:

1 [ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス（Licenses）] ページの [ライセンスの履行（License Fulfillment）] テーブルで、[PAK] カラムのリストから PAK を選択します。

（注） 編集（鉛筆）のアイコンは、部分履行をサポートする PAK を示します。

2 [PAK の詳細（PAK Details）] ウィンドウが開き、PAK のライセンスの元の番号が表示されます。 PAK の現在のステータスを取得するには、[PAK の履行を調整（Adjust PAK Fulfillment）] を選択します。

3 プロンプトが表示されたら、Cisco.com のアカウント情報を入力します（Cisco.com に登録したときに入力した情報）。

4 これで、各ライセンス タイプの [インストール（Install）] カラムを編集できます。

5 PAK の履行数を調整したら、[PAK の履行を更新（Update PAK Fulfillment）] ボタンをクリックします。

（注） 履行数は増やすことはできますが、減らすことはできません。

手動履行

手動履行ではライセンスの履行を実行する追加の手順が必要になります。 インターネット接続が使用できない状態では、手動履行が使用できる唯一の方法です。 手動履行は、次に説明するようにライセンスの移行に必要です。

1. 既存のライセンスを Enterprise License Manager に移行します（該当する場合）。 既存のライセンスを移行する場合は、「ライセンスのアップグレードウィザードを使用したライセンスの移行」を参照してください。
2. 既存のライセンスを移行したら、「ライセンスの追加ウィザードを使用した新しいライセンス要件の判定」の手順に従って新しいライセンスを取得します。

[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィザードを使用してライセンスを移行する

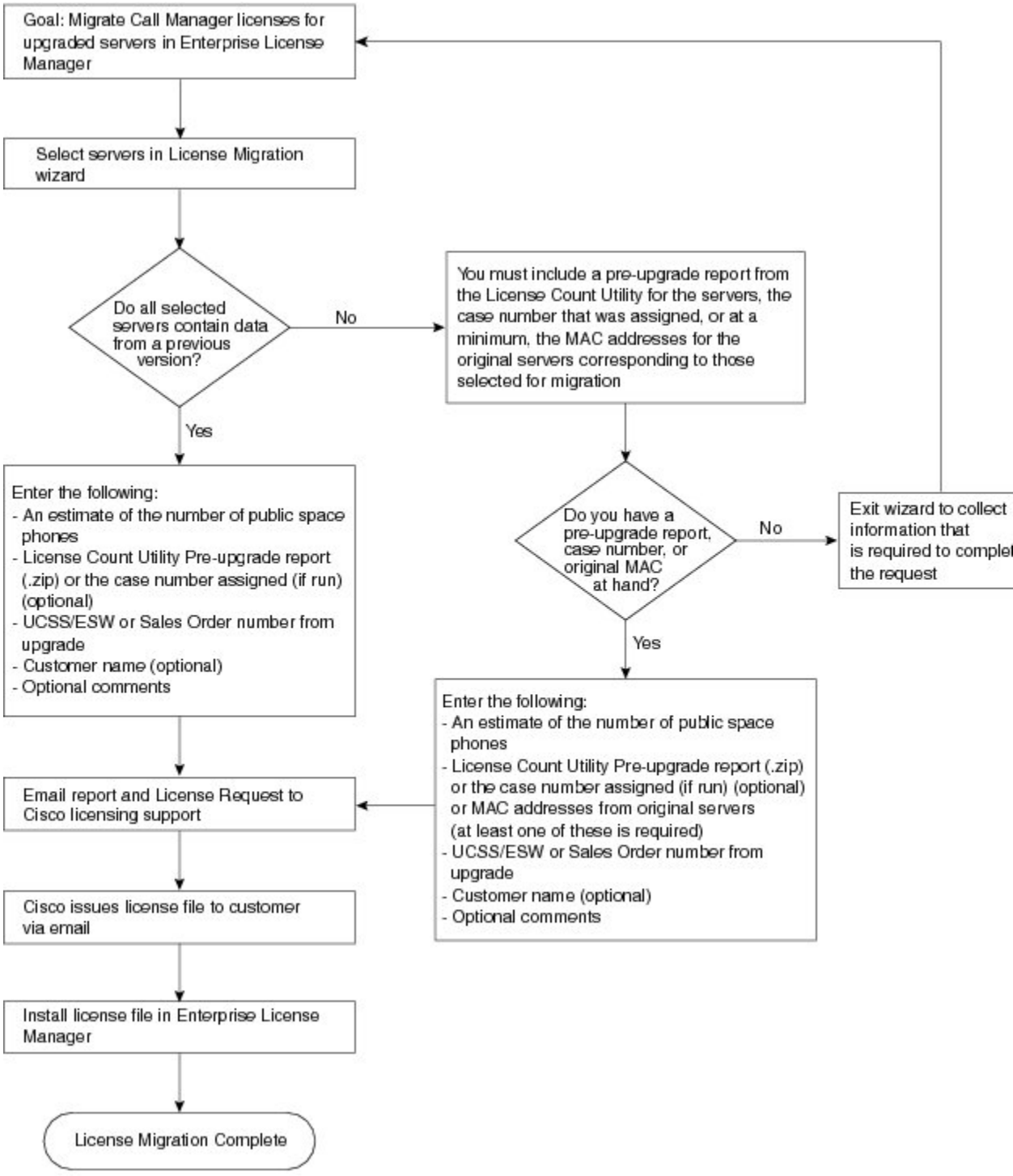
重要 Enterprise License Manager がデモ モードになっている場合は、複数の移行要求を作成しないでください。 2つ目の移行を開始する前に、ライセンスのインストールを含め、最初の移行を完了します。 移行要求が複数のライセンス ファイルに分かれる場合は、先に進む前に、すべてのライセンス ファイル順番にをインストールします。

はじめる前に

注目 ユーザの実行する移行パスは、いくつかの要因によって異なります（たとえば、製品タイプ、サーバに以前のバージョンのデータが含まれているかどうかなど）。 次のフローチャートは、移行を正常に完了するために必要な意思決定に関するガイドを提供します。 移行プロセスのより広範囲なビューについては、『*Release Notes for Cisco Unified Communications Manager, Release 9.1(2)*』を参照してください。

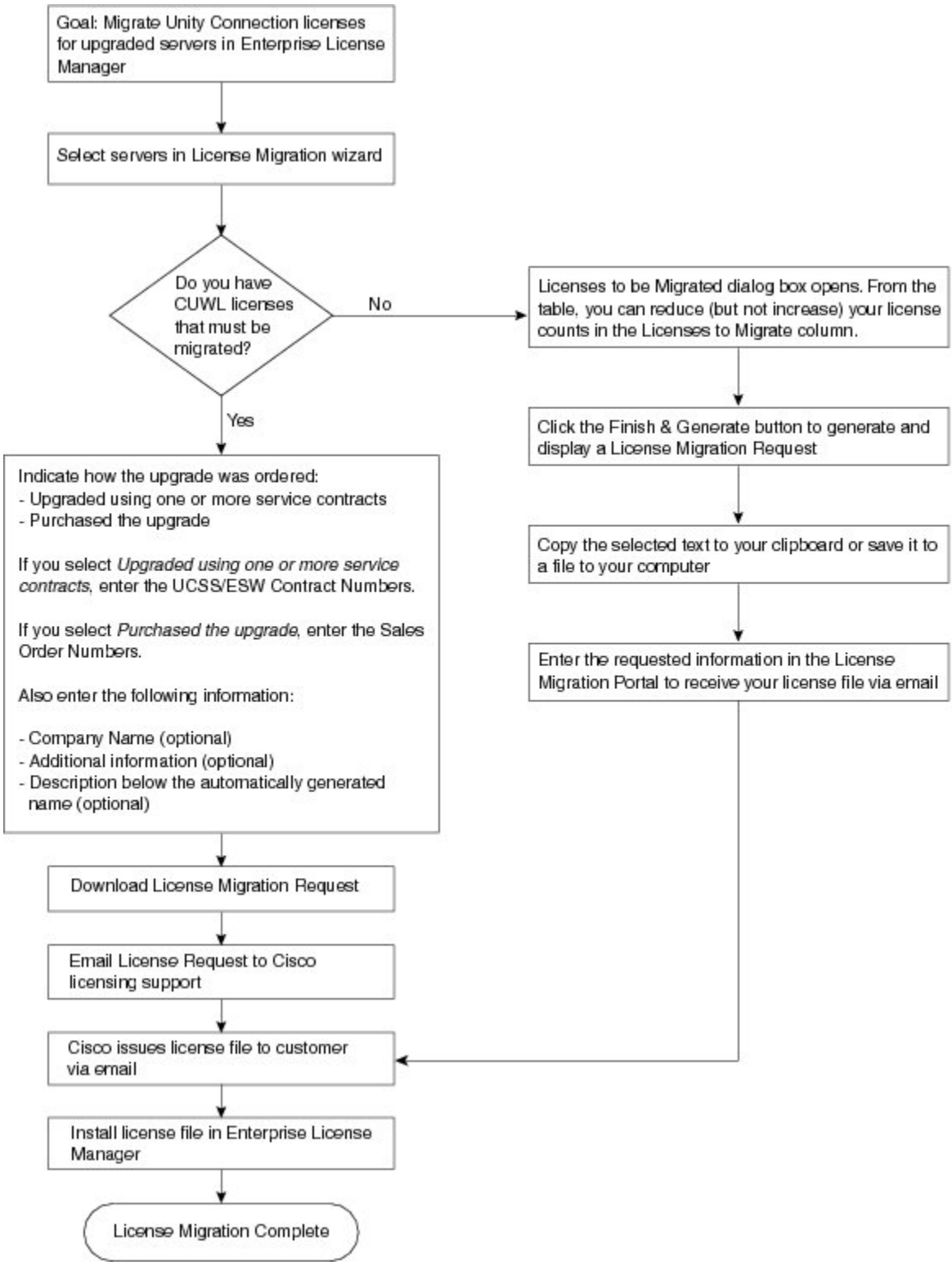
Unified CM は、特定の移行パスに従います。

図 *1*：***Unified CM*** の移行のフロー チャート



Unity Connection の場合は、別の移行パスに従う必要があります。

図 *2*：*Unity Connection* の移行のフロー チャート


Goal: Migrate Unity Connection licenses for upgraded servers in Enterprise License Manager
Select servers in License Migration wizard
Do you have CUWL licenses that must be migrated?
No
Yes
Licenses to be Migrated dialog box opens. From the table, you can reduce (but not increase) your license counts in the Licenses to Migrate column.
Click the Finish & Generate button to generate and display a License Migration Request
Copy the selected text to your clipboard or save it to a file to your computer
Enter the requested information in the License Migration Portal to receive your license file via email
Indicate how the upgrade was ordered:
- Upgraded using one or more service contracts
- Purchased the upgrade
If you select Upgraded using one or more service contracts, enter the UCSS/ESW Contract Numbers.
If you select Purchased the upgrade, enter the Sales Order Numbers.
Also enter the following information:
- Company Name (optional)
- Additional information (optional)
- Description below the automatically generated name (optional)
Download License Migration Request
Email License Request to Cisco licensing support
Cisco issues license file to customer via email
Install license file in Enterprise License Manager
License Migration Complete
350723

手順

ステップ 1 Enterprise License Manager の [ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス計画（License Planning）] ページで [Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ボタンをクリックします。

ステップ 2 [Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィザードのウィンドウが表示されます。 最初のステップには、製品タイプの選択が含まれます。 [製品タイプの選択（Choose Product Type）] セクションで、ドロップダウン メニューからアップグレードする製品のタイプを選択します。 このセクションには、ユーザが選択した製品のタイプによって異なる移行プロセスの説明があります。 [Next] をクリックします。

ステップ 3 [製品インスタンスの選択（Choose Product Instances）] セクションが表示されます。 製品インスタンスをアップグレードするには、[利用可能な製品インスタンス（Available Product Instances）] ウィンドウで製品インスタンスを選択し、これを [移行対象の製品インスタンス（Product Instances to Migrate）] ウィンドウに矢印をクリックして移動します。

（注） デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager の以前のバージョンのライセンスのデータを含む製品インスタンスのみが [利用可能な製品インスタンス（Available Product Instances）] テーブルに表示されます。 アップグレードした製品インスタンスがリストに表示されない場合は、[その他の Unified CM 製品インスタンスを表示（Show additional Unified CM product instances）] チェックボックスをクリックします。 このチェックボックスを選択すると、以前のライセンス データを含まない製品インスタンスと以前のライセンス移行要求に含まれる製品インスタンスがリストに追加されます。

[Next] をクリックします。

ステップ 4 [ライセンス数（License Counts）] セクションが表示されます。 ステップ 2 で製品タイプとして [Unified CM] を選択した場合は、[アップグレード前の製品インスタンス データの要約（Summary of Pre-Upgrade Product Instance Data）] テーブルに前のステップで選択した製品インスタンスがリストされます。 このテーブルは編集できません。テーブルの下に入力が必要ないくつかのフィールドがあります。

フィールド	入力
Public Space 電話（Public Space Phones）	Public Space 電話の予測台数。 Public Space 電話には割り当てのユーザがなく、通常は共有ワークスペース、ロビーや会議室に配置されます。 これらの電話は一般に下位レベルのライセンスを必要とするため、展開環境におけるこれらの電話の予測台数は Cisco がライセンス要件をより正確に判断するのに役立ちます。
顧客名（任意）	後で参照するために顧客名をここに追加することができます。
ケース番号（任意）	Cisco Licensing Support にレポートを送信した場合に割り当てられるケース番号です。

フィールド	入力
ライセンスの使用状況レポート（任意）	[レポートのアップロード（Upload Report）] ボタンをクリックし、[ラインセンス数のユーティリティ レポートのアップロード（Upload License Count Utility Report）] ダイアログボックスを開きます。 [参照（Browse）] ボタンをクリックしてレポート ファイルを選択し、[レポートのアップロード（Upload Report）] をクリックします。
MAC アドレス（任意）	アップグレードされた元のサーバの MAC アドレスです。 これらの MAC アドレスを使用して製品インスタンスで登録されたライセンスを検索することができます。

- 適切なオプションを選択して必要な情報を入力したら、[次へ（Next）] をクリックします。ステップ 6 に進みます。
- ステップ 2 で [Unity Connection] を選択した場合は、ステップ 5 に進みます。

ステップ 5 ステップ 2 で製品タイプとして [Unity Connection] を選択した場合、[ライセンス数（License Counts）] セクションで Cisco Unified Workshop Licenses（CUWL）に関する 2 つのオプションから選択するように求められます。

オプション	入力
移行する CUWL ライセンスがある	[次へ（Next）] をクリックし、[要約と次の手順（Summary and Next Steps）] のセクションに移動します。
移行する CUWL ライセンスがない	[移行するライセンス（Licenses to be Migrated）] ダイアログ ボックスが開きます。 テーブルの [移行するライセンス（Licenses to Migrate）] カラムでライセンス数を減らすことができます（ライセンス数を増やすことはできません）。 または、[コンプライアンス チェックの実行（Run Compliance Check）] ボタンをクリックしてコンプライアンス チェックを実行するか、[値のリセット（Reset Values）]ボタンをクリックしてライセンスの値をリセットすることも選択できます。 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じてから、[次へ（Next）]をクリックして [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] のセクションに移動します。

ステップ 6 [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] のセクションが表示されます。 繰り返しますが、ステップ 2 で選択した製品タイプによってこのセクションに表示される情報が決まります。

選択した製品タイプ	入力
Unified CM	このセクションでは、アップグレードをどのように注文したかを指定する必要があります。 - 1 つ以上のサービス契約を利用してアップグレードした - アップグレードを購入した 1 つ以上のサービス契約を利用してアップグレードした場合は、[UCSS/ESW 契約番号（UCSS/ESW Contract Numbers）] を入力します。 アップグレードを購入した場合は、[SO 番号（Sales Order Numbers）] を入力します。 [Cisco.com（CCO）ユーザ ID（Cisco.com (CCO) User ID）] フィールドに Cisco ユーザ ID を入力します。 [会社名（Company Name）] やその他の情報をキャプチャするために使用するフィールドは任意選択です。 会社名を入力すると、その名前が電子メールの件名行で使用され、zip ファイルの名前に含まれます。 また、要約のデフォルト名は、<productname>-migrate-<date-time-stamp> のフォーマットで [名前（Name）] フィールドに表示されます。 発注やライセンスの履行に関する説明も、このセクションに表示されます。 [終了して要求を作成（Finish & Generate Request）] をクリックします。 [ライセンス移行要求と次の手順（License Migration Request and Next Steps）] ウィンドウが表示されます。 ライセンス移行要求の zip ファイルを PC にダウンロードします。 提供されたリンクを使用してライセンス移行要求を Cisco のラインセンス サポートに電子メールで送信します。 [閉じる（Close）] をクリックし、[ライセンス計画（License Planning）] ページに戻ります。

選択した製品タイプ	入力
[Unity Connection] > [移行する CUWL ライセンスがある（I have CUWL licenses to be migrated）]	このセクションでは、アップグレードをどのように注文したかを指定する必要があります。 - 1 つ以上のサービス契約を利用してアップグレードした - アップグレードを購入した 1 つ以上のサービス契約を利用してアップグレードした場合は、[UCSS/ESW 契約番号（UCSS/ESW Contract Numbers）] を入力します。 アップグレードを購入した場合は、[SO 番号（Sales Order Numbers）] を入力します。 [Cisco.com（CCO）ユーザ ID（Cisco.com (CCO) User ID）] フィールドに Cisco ユーザ ID を入力します。 [会社名（Company Name）] やその他の情報をキャプチャするために使用するフィールドは任意選択です。 会社名を入力すると、その名前が電子メールの件名行で使用され、zip ファイルの名前に含まれます。 また、要約のデフォルト名は、<productname>-migrate-<date-time-stamp> のフォーマットで [名前（Name）] フィールドに表示されます。 発注やライセンスの履行に関する説明も、このセクションに表示されます。 [終了して要求を作成（Finish & Generate Request）] をクリックします。 [ライセンス移行要求と次の手順（License Migration Request and Next Steps）] ウィンドウが表示されます。 ライセンス移行要求の zip ファイルを PC にダウンロードします。 提供されたリンクを使用してライセンス移行要求を Cisco のラインセンス サポートに電子メールで送信します。 [閉じる（Close）] をクリックし、[ライセンス計画（License Planning）] ページに戻ります。

選択した製品タイプ	入力
[Unity Connection] > [移行するCUWLライセンスがない（I do not have CUWL licenses to be migrated）]	このセクションでは、行った変更の要約を確認して保存できます。 要約を表示するには、[要約の表示（View Summary）] をクリックします。 また、要約のデフォルト名は、<productname>-migrate-<date-time-stamp> のフォーマットで [名前（Name）] フィールドに表示されます。 発注やライセンスの履行に関する説明も、このセクションに表示されます。 [終了して要求を作成（Finish & Generate Request）] をクリックします。 [ライセンス移行要求と次の手順（License Migration Request and Next Steps）] ウィンドウが表示されます。 選択したテキストをクリップボードにコピーするか、[コンピュータのファイルに保存します（Save it to a file on your computer）] をクリックします。 ステップ 2 の [ライセンス移行ポータル（License Migration Portal）] を選択し、コピーしたテキストを指定されたフィールドに貼り付けるか、コンピュータに保存したファイルを選択します。 [閉じる（Close）] をクリックし、[ライセンス計画（License Planning）] ページに戻ります。

ライセンスの追加ウィザードを使用した新しいライセンス要件の判定

新しいライセンスの追加を計画するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Enterprise License Manager の [ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス計画（License Planning）] ページで [ライセンスの追加（Add Licenses）] ボタンをクリックします。

ステップ 2 ライセンスの追加ウィザードのウィンドウが表示されます。 最初に、製品タイプを選択します。 ドロップダウン メニューの [製品の選択（Choose Product）] セクションで、ライセンスを追加する製品のタイプとバージョンを選択し、 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 3 [ライセンス数の指定（Specify License Counts）] セクションが表示されます。 このセクションで各タイプのライセンスに割り当てるライセンスの数を調整し、[保存（Save）] をクリックしてそのライセンス タイプに対する変更を保存します。 また、[コンプライアンス チェックの実行（Run Compliance Check）] ボタンをクリックしてコンプライアンス チェックを実行したり、[値のリセット（Reset Values）] ボタンをクリックしてライセンスの値をリセットしたりすることも可能です。 ライセンス数が設定されたら、[次へ（Next）] をクリックします。

各ライセンスタイプの横の矢印をクリックすると、そのライセンスタイプの詳細情報が表示されます。

ステップ 4 [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] セクションが表示されます。 このセクションでは、行った変更の要約を確認して保存できます。 また、独自の要約名と説明を入力することも可能です。

ステップ 5 要約を表示するには、[要約の表示（View Summary）] をクリックします。デフォルトで、[Enterprise License Manager に要約を保存（Save Summary in Enterprise License Manager）] オプションが選択されます。 [名前（Name）] フィールドにも要約のデフォルト名が <製品名>-add-<日時スタンプ> の形式で表示されます。 発注やライセンスの履行に関する説明も、このセクションに表示されます。 [終了（Finish）] をクリックして、ライセンスの追加ウィザードを完了します。

ライセンス要求の作成

新しいライセンスを取得するには（手動履行を使用）、[ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス（Licenses）] ページで最初にライセンス要求を生成してから、生成された情報を使用して要求を送信します。 その後、電子メールでライセンス ファイルが送信されます。 ライセンス要求を作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Enterprise License Manager にログインします。

ステップ 2 [ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス（Licenses）] ページで [その他の履行オプション（Other Fulfillment options）] ドロップダウン リストから [ライセンス要求の作成（Generate License Request）] を選択します。

ステップ 3 [ライセンス要求と次の手順（License Request and Next Steps）] ウィンドウが表示されます。 選択したテキストをクリップボードにコピーするか、[コンピュータにライセンス要求ファイルを保存します（Save the License Request File to your computer）] をクリックします。

次の作業

クリップボードまたはコンピュータにライセンス要求情報を保存する場合は、Cisco License Registration サイトにアクセスし、該当するフィールドに情報を貼り付ける必要があります。 電子メールでライセンス ファイルを受け取ったら、ライセンスのインストール，（38 ページ）の手順を使用して Enterprise License Manager に新しいライセンス ファイルをインストールします。

ライセンスのインストール

はじめる前に

ライセンスのアップグレード ウィザードを使用したライセンスの移行またはライセンス要求の作成, （37 ページ）の手順を使用してライセンスを取得したら、Enterprise License Manager にライセンスをインストールできます。 ライセンスをインストールするには、次の手順を実行します。

（注） この手順は、手動履行に主に適用されます。 電子履行の使用時は、[ライセンスのインストール（Install Licenses）] 機能を使用する必要はありません。

重要 Enterprise License Manager がデモ モードになっている場合、追加ライセンスの履行前に生成された最初のライセンスの履行をインストールする必要があります。

手順

ステップ 1 Enterprise License Manager にログインします。

ステップ 2 [ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス（Licenses）] を選択します。

ステップ 3 [ライセンスのインストール（Install Licenses）] ボタンをクリックします。

ステップ 4 新規ライセンス ファイルのインストール ウィンドウが表示されます。 [参照（Browse）] ボタンをクリックします。

ステップ 5 アップロードしてインストールするライセンス ファイルを選択し、[開く（Open）] をクリックします。

ステップ 6 [ライセンス ファイル（License File）] フィールドにライセンス ファイルが表示されます。 [インストール（Install）] ボタンをクリックします。

ステップ 7 ライセンスが正常にインストールされると、インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。 [閉じる（Close）] をクリックして、[ライセンス（Licenses）] ページに戻ります。

CLI コマンド

重要 Enterprise License Manager CLI コマンドを使用するには、0 以上の特権レベルが必要です。

次の CLI コマンドは、Enterprise License Manager で利用できます。

- **license management list users**

- **license management change user{name| password}**

これらのコマンドの詳細情報およびCLIの追加情報については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Solutions*』を参照してください。

リリース 9.1（2）の新しい CLI コマンド

次の CLI コマンドが Enterprise License Manager リリース 9.1（2）に追加されました。

- **license management reset identity**

  このコマンドは、Enterprise License Manager サーバのライセンス ID をリセットし、すべてのインストール済みライセンスを削除します。 このサーバで以前にインストールされたライセンスを回復する場合は、ライセンスの再ホストを実行する必要があります。 この操作が完了するまでには数分かかることがあります。

- **license management product re-register all**

  このコマンドは、この Enterprise License Manager サーバにすべての製品インスタンスを再登録することによって登録の競合を解消します。 このコマンドでは、すべての製品インスタンスの再登録と同期が完了するまでに時間がかかることがあります。

- **license file diagnose {full}**

  このコマンドはライセンス ファイルをリストから選択し、診断情報を印刷できるようにします。

- **license file get {compress}**

  このコマンドは、ライセンス ファイルまたはシステム上のファイルの TAR ファイルを作成し、リモート エリアに TAR ファイルを転送します。

第 4 章

Enterprise License Manager のセットアップ

- [バージョン情報（About）] ウィンドウ，42 ページ
- [モニタリング（Monitoring）] ビューの設定，42 ページ
- [ダッシュボード（Dashboard）] の設定，42 ページ
- [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの設定，44 ページ
- [ライセンス管理（License Management）] ビューの設定，46 ページ
- [ライセンス（Licenses）] ページの設定，46 ページ
- [ライセンス計画（License Planning）] ページの設定，51 ページ
- [インベントリ（Inventory）] ビューの設定，57 ページ
- [管理（Administration）] ビューの設定，59 ページ

[バージョン情報（About）] ウィンドウ

設定	説明
バージョン情報（About）	[バージョン情報（About）] ダイアログボックスには、Enterprise License Manager のバージョン番号と登録 ID 番号が示されます。 （注） この情報は、再ホスティングで使用できます。 再ホスティングとは、ユーザがライセンスを Enterprise License Manager の 1 つのインスタンスから別のインスタンスへ移動させる際に従うプロセスです。 Enterprise License Manager の 1 つのインスタンスですでに発行および履行されているライセンスは、再ホスティングのプロセスを経て、Enterprise License Manager の新しいインスタンスや別のインスタンスに移動します。 このプロセスの一環として、Enterprise License Manager のインストール後に、バージョン番号と登録 ID 番号を何らかの形で記録しておくことを推奨します。

[モニタリング（Monitoring）] ビューの設定

[モニタリング（Monitoring）] ビューには、ライセンス情報を表示して製品ライセンスを設定する 2 つのページがあります。

- [ダッシュボード（Dashboard）] の設定, （42 ページ）
- [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの設定, （44 ページ）

[ダッシュボード（Dashboard）] の設定

設定	説明
[概要（Overview）] セクション	
製品インスタンス（Product Instances）	Enterprise License Manager の管理対象の製品インスタンスの総数。 [製品インスタンス（Product Instances）] をクリックすると、[インベントリ（Inventory）] > [製品インスタンス（Product Instances）] ページに移動します。

設定	説明
最後にライセンスを更新した日時（Last License Update）	ライセンスを最後に更新した日時。 [最後にライセンスを更新した日時（Last License Update）] をクリックすると、[ライセンス管理（License Management）]>[ライセンス（Licenses）] ページに移動します。
最後に同期した日時（Last Synchronization）	最後に正常に同期した日時。 [最後に同期した日時（Last Synchronization）] をクリックすると、[インベントリ（Inventory）]>[製品インスタンス（Product Instances）] ページに移動します。このページでは、各製品インスタンスの [同期ステータス（Synchronization Status）] と [最後に同期した日時（Last Synchronization）] を表示できます。 また、[今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンをクリックすると、このページから同期を実行できます。 （注） 同期は、Enterprise License Manager がシステムのあらゆるライセンス タイプの最新情報を収集する際に実行されます。
[ライセンス アラート（License Alerts）] セクション	
タイプ（Type）	適合していないライセンス タイプ。
ステータス（Status）	アラートに関する情報を示します（ライセンス数の不足、ライセンスの有効期限切れなど）。
[ライセンスの使用状況（License Usage）] セクション	
タイプ（Type）	ライセンス タイプを指定します。
必要数（Required）	各製品タイプに割り当てられたライセンス数。
[同期の失敗（Synchronization Failures）] セクション	
名前（Name）	同期が試行され、失敗したシステムの名前。
失敗の理由（Failure Reason）	同期に失敗した理由を特定します。
最後に成功した日時（Last Success）	最後に正常に同期した日時。

[ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの設定

[ライセンスの使用状況（License Usage）] ページには、ライセンスがどのように使用されているのかを確認する次の 2 つのビューがあります。

- テーブル ビュー（Table View）
- チャート ビュー（Chart View）

（注） [テーブル ビュー（Table View）] と [チャート ビュー（Chart View）] のどちらでも、[今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンをクリックしてライセンスを同期できます。

設定	説明
テーブル ビュー（Table View）	
タイプ（Type）	製品スコープ内でサポートされているライセンス タイプの名前。 詳細については、[タイプ（Type）] 列の特定のライセンス タイプをクリックして、ライセンス タイプの詳細ページを開きます。
製品スコープ（Product Scope）	製品タイプ。
必要数（Required）	サーバにプロビジョニングしたサービスを配信するため、製品インスタンスに必要なライセンス数。
インストール済み（Installed）	現在インストールされているライセンス数。
未使用（Unused）	ライセンスの必要数とインストール済みの数の差。 この列の数は、特定のライセンス タイプの未使用のライセンスの状態に応じて色分けされます。 数字が赤の場合は、ライセンス数が不足していると考えられます。 数字が黒の場合は、ライセンス数が適合していると考えられます。
ステータス（Status）	ライセンスのステータス（[一時ライセンスの有効期限がまもなく終了（Temp Licenses Nearing Expiration）]、[適合（In Compliance）] など）。
[今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタン	Enterprise License Manager を製品インスタンスと同期させて、システムのあらゆるライセンス タイプの最新情報を取得します。

設定	説明
チャート ビュー（Chart View）	
使用可能（Available）	使用可能なライセンスが次のいずれかに分類されます。 • インストール済み（Installed） • 上位ティアから借用（Borrowed from Upper Tier）
使用済み（Used）	使用済みライセンスが次のいずれかに分類されます。 • 必須（Required） • 下位ティアに貸与（Loaned to Lower Tier） [チャート ビュー（Chart View）] には多数のライセンス タイプがあります。 ライセンス タイプの詳細については、http://www.cisco.com/go/uclicensing を参照してください。
[今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタン	Enterprise License Manager を製品インスタンスと同期させて、システムのあらゆるライセンス タイプの最新情報を取得します。
[ライセンスの使用状況（License Usage）] 詳細ページ （注） [ライセンスの使用状況（License Usage）] ページの [テーブル ビュー（Table View）] でライセンスをクリックすると、この [ライセンスの使用状況（License Usage）] 詳細ページが開きます。	
[ライセンスの説明（License Description）] セクション	[ライセンスの説明（License Description）] セクションには、そのライセンス タイプの説明が表示されます。 Cisco.com. のすべてのライセンス タイプの説明を表示するリンクも含まれています。
[使用状況チャート（Usage Chart）] セクション	[使用状況チャート（Usage Chart）] セクションには、利用可能な特定のライセンス タイプの数と、そのうちのインストール済みの数または上位ティアから借用した数が図示されます。 また、使用中のライセンス タイプの数、その中で下位層で要求または貸与されたライセンス タイプの数も示します。
[インスタンス別の使用状況（Usage by Instance）] セクション	[インスタンス別の使用状況（Usage by Instance）] セクションには、特定のライセンス タイプを使用中のシステムが一覧表示され、システムの製品タイプ、リリースバージョン、これらの各システムで必要なライセンス数が識別されます。

設定	説明
[インストール済みライセンス（タイプ別）（Installed Licenses by Type）] セクション	[インストール済みライセンス（タイプ別）（Installed Licenses by Type）] セクションでは、無期限ライセンスと一時ライセンスが区別され、各ライセンスの上限数と一時ライセンスの有効期限が表示されます。

[ライセンス管理（License Management）] ビューの設定

[ライセンス管理（License Management）] ビューには、ライセンス情報を表示して製品ライセンスを設定する 2 つのページがあります。

- [ライセンス（Licenses）] ページの設定, （46 ページ）
- [ライセンス計画（License Planning）] ページの設定, （51 ページ）

[ライセンス（Licenses）] ページの設定

設定	説明
[ライセンス（Licenses）] ページ	
[有効（Enable）] ボタン	電子履行を有効にすることができます。 これは、デフォルトの状態です。
[無効（Disable）] ボタン	電子履行を無効にすることができます。電子履行が無効の場合、[無効（Disable）] ボタンを選択すると、手動履行のオプションだけが表示されます。
[ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] ボタン（電子履行）	[ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] ウィザードが開きます（電子履行）。

設定	説明
その他の履行オプション（Other Fulfillment options）（電子履行）	電子履行を有効にすると、表示されるドロップダウン メニューで次を行うことができます。 • ライセンスをファイルから履行（Fulfill Licenses from File） • ライセンス要求の作成（Generate License Request） （注） どちらのオプションも、手動履行で使用できるオプションと同じものです。 [ライセンスをファイルから履行（Fulfill Licenses from File）] オプションでは、[ライセンス ファイルのインストール（Install License File）] ページが開きます。 [ライセンス要求の作成（Generate License Request）] オプションでは、[ライセンス要求と次の手順（License Request and Next Steps）] ダイアログボックスが開きます。
[ライセンスをファイルから履行（Fulfill Licenses from File）] ボタン（手動履行）	[ライセンス ファイルのインストール（Install License File）] ページが開きます。
その他の履行オプション（Other Fulfillment options）（手動履行）	電子履行を無効にすると、表示されるドロップダウン メニューで次を行うことができます。 • ライセンス要求の作成（Generate License Request） [ライセンス要求の作成（Generate License Request）] オプションでは、[ライセンス要求と次の手順（License Request and Next Steps）] ダイアログボックスが開きます。
履行日（Fulfillment Date）	ライセンスの履行の日付を指定します。
説明（Description）	ライセンス履行のウィザードで、ユーザが指定した説明です。
方法（Method）	使用するライセンス履行のタイプを指定します（電子履行またはファイルのインストール）
PAK	PAK ID を指定します（電子履行モードでは、PAK ID はクリック可能なリンクです。リンクをクリックすると、その PAK の PAK 履行を調整できる PAK の詳細ウィンドウが開きます）。
[ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] ページ	

設定	説明
方式を選択（Choose Method）	[ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] ページの [方式を選択（Choose Method）] セクションでは、次からライセンスを追加できます。 • 新しい PAK（A new PAK） • 部分履行をサポートするインストール済みの PAK（An already-installed PAK that supports partial fulfillment）（部分履行をサポートする PAK のみがドロップダウン メニューに表示されます）。
内容を確認（Review Contents）	[ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] ページの [内容を確認（Review Contents）] セクションでは、PAK の内容を確認できます。 PAK が部分履行をサポートする場合、ライセンスのインストール数を調整できます。
ライセンス オプション（License Options）	[ライセンスを PAK から履行（Fulfill Licenses from PAK）] ページの [ライセンス オプション（License Options）] セクションでは、トランザクションに説明を追加したり、作成済みの追加プランまたはアップグレード プランに関連付けたりすることができます。
[ライセンス ファイルのインストール（Install License File）] ページ	
[参照（Browse）] ボタン	使用中のコンピュータからライセンス ファイルを選択できます。
[インストール（Install）] ボタン	（[参照（Browse）] ボタンを使用して）ライセンス ファイルを選択しているとき、[ライセンス ファイル（License File）] フィールドに表示されます。 [インストール（Install）] ボタンは、そのライセンス ファイルをインストールするために使用されます。
[ライセンス要求と次の手順（License Request and Next Steps）] ダイアログボックス	
選択した以下のテキストを…（Copy the selected text）	[ライセンス要求と次の手順（License Request and Next Steps）] ダイアログボックスの最初の手順には、次のオプションがあります。テキスト ボックスのテキストをクリップボードにコピーするか、リンクをクリックしてコンピュータにライセンス要求ファイルを保存します。
ライセンスの登録（Register your Licenses）	2 番目のステップでは、表示されているリンクをクリックしてライセンスを登録するよう指示されます。

設定	説明
ライセンスのインストール（Install your Licenses）	3 番目の手順では、ライセンスを受信したら、Enterprise License Manager に戻ってそれをインストールするように推奨されます。ライセンスファイルは通常、電子メール経由で受信するか、Cisco ポータルからダウンロードします。 [インストール（Install）] ボタンをクリックして、[ライセンス（Licenses）] ページに戻ります。
[PAK の詳細（PAK Details）] ページ	
[PAK の履行を調整（Adjust PAK Fulfillment）] オプション	[PAK の詳細（PAK Details）] ページの上部にある [PAK の履行を調整（Adjust PAK Fulfillment）] リンクをクリックすると、最新の PAK の詳細を取得し、テーブルを読み取り専用から編集可能に変更し、Enterprise License Manager の PAK 履行を調整できるようにします。
[PAK の内容（PAK Contents）] テーブル	[PAK の内容（PAK Contents）] テーブルには、次のカラムがあります。 • [SKU 名（SKU Name）]：ファイルに含まれるライセンスの名前を指定します。 • [タイプ（Type）]：ライセンスのタイプを指定します（例：無期限、期間限定）。 • [期限切れ（Expiration）]：期間限定のライセンスが期限切れになる日を指定します。 • [PAK での合計（Total in PAK）]：PAK でそのライセンスのタイプの合計を指定します。 [PAK の履行を調整（Adjust PAK Fulfillment）] オプションを選択すると、次の追加カラムがテーブルに表示されます。 • すでに履行済み（Already Fulfilled） • インストール可能（Available to Install） • インストール（Install）（編集可能） • 使用可能な残り数（Remaining Available）
[表示 <ファイル ID>（View <File ID>）] ページ	

設定	説明
ファイルの詳細（File Details）	[ファイルの詳細（File Details）] セクションには、次の情報が含まれています。 • ファイル名（File Name） • 説明（Description） • インストール日（Installation Date） • 関連付けられた要約（Associated Summary）
ファイルの内容（File Contents）	[ファイルの内容（File Contents）] セクションには [ライセンス ファイルの内容（Licence File Contents）] テーブルがあり、次のカテゴリでライセンス ファイルが一覧表示されます。 • タイプ（Type） • 製品スコープ（Product Scope） • 数（Count）（特定のライセンス タイプの数） • 有効期限（Expiration date）
[<File ID> の編集（Edit <File ID>）] ページ	
ファイルの詳細の編集（Edit File Details）	[表示 <ファイル ID>（View <File ID>）] ウィンドウの [ファイルの詳細の編集（Edit File Details）] ボタンをクリックすると、[ファイルの詳細の編集（Edit File Details）] ウィンドウが開きます。このウィンドウには次の情報が含まれています。 • ファイル名（File Name） • 説明（Description） • インストール日（Installation Date） • 関連付けられた要約（Associated Summary）（このライセンス ファイルに関連付けられたライセンス計画） [説明（Description）] フィールドと [関連付けられた要約（Associated Summary）] フィールドは編集できます。

[ライセンス計画（License Planning）] ページの設定

設定	説明
[ライセンス計画（License Planning）] ページ	
名前（Name）	ライセンス計画の名前を指定します。 [履歴（History）] テーブルのリストからライセンス計画名を選択すると、そのライセンス計画の [詳細（Details）] ウィンドウが開きます。このウィンドウには次の情報が含まれています。 • 名前（Name）（編集可能） • 説明（Description）（編集可能） • タイプ（Type） • 作成日（Created Date） • 要約（Summary）（そのライセンス計画の要約情報を示す [要約の表示（View Summary）] リンクを含む）
説明（Description）	ライセンス計画の簡単な説明を示します。
タイプ（Type）	ライセンス計画のタイプを指定します。
作成日（Creation Date）	ライセンス計画の作成日を指定します。
アクション（Action）	[アクション（Action）] 列には、ライセンス計画を削除する [削除（Delete）] ボタンがあります。
[ライセンス追加計画の作成（Create an Add Licenses Plan）] ボタン	[ライセンス追加計画の作成（Create an Add Licenses Plan）] ボタンをクリックすると、[ライセンス追加計画の作成（Create an Add Licenses Plan）] ウィザードが開きます。[ライセンス追加計画の作成（Create an Add Licenses Plan）] ウィザードの実行方法については、『Enterprise License Manager ユーザ ガイド』を参照してください。

設定	説明
[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ボタン	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ボタンをクリックすると、[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィザードが開きます。 [Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィザードの実行方法については、『Enterprise License Manager ユーザ ガイド』を参照してください。
[ライセンス追加計画の作成（Create an Add Licenses Plan）] ページ	
[製品の選択（Choose Product）] セクション	[ライセンスの追加（Add Licenses）] ウィンドウの [製品の選択（Choose Product）] セクションでは、ライセンスに追加する製品タイプと製品バージョンを（ドロップダウン メニューから）選択できます。
[ライセンス数の指定（Specify License Counts）] セクション	[ライセンスの追加（Add Licenses）] ウィンドウの [ライセンス数の指定（Specify License Counts）] セクションでは、各ライセンス タイプに割り当てられるラインセンス数を調整し、そのライセンス タイプの変更を保存できます。 また、[コンプライアンス チェックの実行（Run Compliance Check）] ボタンをクリックしてコンプライアンス チェックを実行したり、[値のリセット（Reset Values）] ボタンをクリックしてライセンスの値をリセットしたりすることも可能です。
[要約と次の手順（Summary and Next Steps）] セクション	[ライセンスの追加（Add Licenses）] ウィンドウの [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] セクションでは、[製品の選択（Choose Product）] セクションや [ライセンス数の指定（Specify License Counts）] セクションで行った変更の要約を表示して保存できます。 デフォルトで、[Enterprise License Manager に要約を保存（Save Summary in Enterprise License Manager）] オプションが選択されます。 [名前（Name）] フィールドにも要約のデフォルト名が <製品名>-add-<日時スタンプ> の形式で表示されます。
[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ページ	

設定	説明
製品タイプの選択（Choose Product Type）	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィンドウの [製品タイプの選択（Choose Product Type）] セクションでは、ドロップダウンメニューからアップグレードする製品タイプとバージョン番号を選択できます。 表示されるプロセス概要の手順は、選択した製品タイプに固有のものです。
製品インスタンスの選択（Choose Product Instances）	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィンドウの [製品インスタンスの選択（Choose Product Instances）] セクションでは、製品インスタンスをアップグレードできます。具体的には、[利用可能な製品インスタンス（Available Product Instances）] ウィンドウでインスタンスを選択し、矢印をクリックして [移行対象の製品インスタンス（Product Instances to Migrate）] ウィンドウに移動します。 （注） デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager の以前のバージョンのライセンスのデータを含む製品インスタンスのみが [利用可能な製品インスタンス（Available Product Instances）] テーブルに表示されます。 アップグレードした製品インスタンスがリストに表示されない場合は、[その他の Unified CM 製品インスタンスを表示（Show additional Unified CM product instances）] チェックボックスをクリックします。 このチェックボックスを選択すると、以前のライセンス データを含まない製品インスタンスと以前のライセンス移行要求に含まれる製品インスタンスがリストに追加されます。

設定	説明
ライセンス数（Unified CM）	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィンドウの [ライセンス数（License Counts）] セクションから、アップグレード前の製品インスタンス データの要約を表示できます。 このテーブルは編集できません。 製品タイプとして [Unified CM] を選択した場合は、次のオプションが表示されます。 • Public Space 電話（Public Space Phones）：Public Space 電話の予測台数です。 Public Space 電話には割り当てのユーザがなく、通常は共有ワークスペース、ロビーや会議室に配置されます。 これらの電話は一般に下位レベルのライセンスを必要とするため、展開環境におけるこれらの電話の予測台数は Cisco がライセンス要件をより正確に判断するのに役立ちます。 • 会社名（Company Name）（任意）：後で参照するために顧客名をここに追加することができます • ケース番号（Case Numbers）（任意）：Cisco Licensing Support にレポートを送信した場合に割り当てられるケース番号です。 • ライセンスの使用状況レポート（License Usage Reports）：ローカル ドライブからライセンスの使用状況レポートをアップロードできるようにします。 • MAC アドレス（MAC addresses）：アップグレードされた元のサーバの MAC アドレスです。 これらの MAC アドレスを使用して製品インスタンスで登録されたライセンスを検索することができます。
ライセンス数（Unity Connection）	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィンドウの [ライセンス数（License Counts）] セクションの内容は、前のセクションで選択したオプションによって異なります。 [Unity Connection] を選択した場合は、次のオプションが表示されます。 • 移行する CUWL ライセンスがある（I have CUWL licenses to be migrated） • 移行する CUWL ライセンスがない（I do not have CUWL licenses to be migrated）

設定	説明
要約と次の手順（Summary and Next Steps）（[Unified CM] または [Unity Connection] > [移行する CUWL ライセンスがある（I have CUWL licenses to be migrated）]）	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィンドウの [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] のセクションの内容は、前のセクションで選択したオプションによって異なります。 製品タイプとして [Unified CM] を選択した場合、または [Unity Connection] > [移行する CUWL ライセンスがある（I have CUWL licenses to be migrated）] を選択した場合、次のオプションが表示されます このセクションでは、アップグレードをどのように注文したかを指定する必要があります。 • 1 つ以上のサービス契約を利用してアップグレードした（Upgraded using one or more service contracts） • アップグレードを購入した（Purchased the upgrade） 1 つ以上のサービス契約を利用してアップグレードした場合は、[UCSS/ESW 契約番号（UCSS/ESW Contract Numbers）] を入力します。 アップグレードを購入した場合は、[SO 番号（Sales Order Numbers）] を入力します。 [Cisco.com（CCO）ユーザ ID（Cisco.com (CCO) User ID）] フィールド [会社名（Company Name）] やその他の情報をキャプチャするために使用するフィールドは任意選択です。 会社名を入力すると、その名前が電子メールの件名行で使用され、zip ファイルの名前に含まれます。 また、要約のデフォルト名は、<productname>-migrate-<date-time-stamp> のフォーマットで [名前（Name）] フィールドに表示されます。 発注やライセンスの履行に関する説明も、このセクションに表示されます。 [終了して要求を作成（Finish & Generate Request）] をクリックします。 [ライセンス移行要求と次の手順（License Migration Request and Next Steps）] ウィンドウが表示されます。 ライセンス移行要求の zip ファイルを PC にダウンロードします。 提供されたリンクを使用してライセンス移行要求を Cisco のラインセンス サポートに電子メールで送信します。 [閉じる（Close）] をクリックし、[ライセンスの追加（Add Licenses）] ページまたは [ライセンスのアップグレード（Upgrade Licenses）] ページに戻ります。

設定	説明
要約と次の手順（Summary and Next Steps）（[Unity Connection] > [移行する CUWL ライセンスがない（I do not have CUWL licenses to be migrated）]）	[Enterprise License Manager にライセンスを移行（Migrate Licenses to Enterprise License Manager）] ウィンドウの [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] のセクションの内容は、前のセクションで選択したオプションによって異なります。 [Unity Connection] > [移行する CUWL ライセンスがない（I do not have CUWL licenses to be migrated）] を選択した場合は、次のオプションが表示されます。 このセクションでは、加えた変更の要約を確認して保存できます。 要約を表示するには、[要約の表示（View Summary）] をクリックします。 また、要約のデフォルト名は、<productname>-migrate-<date-time-stamp> のフォーマットで [名前（Name）] フィールドに表示されます。 発注やライセンスの履行に関する説明も、このセクションに表示されます。 [終了して要求を作成（Finish & Generate Request）] をクリックします。 [ライセンス移行要求と次の手順（License Migration Request and Next Steps）] ウィンドウが表示されます。 選択したテキストをクリップボードにコピーするか、[コンピュータのファイルに保存します（Save it to a file on your computer）] をクリックします。 ステップ 2 の [ライセンス移行ポータル（License Migration Portal）] を選択し、コピーしたテキストを指定されたフィールドに貼り付けるか、コンピュータに保存したファイルを選択します。 [閉じる（Close）] をクリックし、[ライセンスの追加（Add Licenses）] ページまたは [ライセンスのアップグレード（Upgrade Licenses）] ページに戻ります。
ライセンス移行要求と次の手順（License Migration Request and Next Steps）	[ライセンスのアップグレード（Upgrade Licenses）] ウィンドウの [要約と次の手順（Summary and Next Steps）] セクションで [終了して要求を作成（Finish & Generate Request）] ボタンをクリックすると、[ライセンス要求と次の手順（License Request and Next Steps）] ダイアログボックスが開きます。 このダイアログボックスからライセンス移行要求の .zip ファイルを PC に保存できます。 このセクションにはライセンス移行要求を Cisco へ電子メールで送信する手順やライセンスをインストールする手順も表示されます。

[インベントリ（Inventory）] ビューの設定

[インベントリ（Inventory）] ビューには [製品インスタンス（Product Instances）] ページがあり、製品のライセンス情報を確認できます。 このページでは、製品インスタンスを追加、削除、同期することができます。

設定	説明
製品インスタンス（Product Instances）	
名前（Name）	製品インスタンスの名前を指定します。
ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address）	製品インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
製品タイプ（Product Type）	製品インスタンスのタイプを指定します（Unified CM または Unity Connection）。
バージョン（Version）	製品インスタンスの製品リリースを指定します。
同期ステータス（Synchronization Status）	製品インスタンスの同期ステータスを指定します（[成功（Success）]、[登録が競合しています（Registration Conflict）]、[サーバ タイプが無効です（Invalid Server Type）] など）。
最後に同期した日時（Last Synchronization）	最後に正常に同期した日時を指定します。
[追加（Add）] ボタン	[製品インスタンス（Product Instances）] ページの [追加（Add）] ボタンをクリックすると、製品インスタンスの追加ダイアログボックスが開きます。 このダイアログボックスでは、次の情報を入力できます。 • 名前（Name） • 説明（Description）（オプション） • 製品タイプ（Product Type） • ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address） • ユーザ名（Username） • パスワード（Password） （注） 新しい製品インスタンスを追加したら、必ず [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンをクリックして、製品から現在のラインセンス情報を抽出します。 同期しない場合は、最新の製品インスタンス情報が Enterprise License Manager に表示されないことがあります。

設定	説明
[テスト接続（Test Connection）] ボタン	[製品の追加（Product Add）] ダイアログボックスでは、[テスト接続（Test Connection）] ボタンをクリックして、製品インスタンスを追加する前に接続をテストできます。 接続が確立されない場合は、接続テストの際、または [OK] をクリックして製品インスタンスを追加する際に、次のいずれかのエラー メッセージが表示されることがあります。 • インスタンスに到達できません（Instance Unreachable） • ログインに失敗しました（Login Failed） • 証明書が一致しません（Certificate Mismatch） • 登録が競合しています（Registration Conflict） • サーバ タイプが無効です（Invalid Server Type） • 製品タイプが一致しません（Product Type Mismatch） • 製品インスタンスが重複しています（Duplicate Product Instance） （注） [テスト接続（Test Connection）] ボタンをスキップして、製品インスタンスの追加ダイアログボックスで [OK] をクリックすることもできます。
[削除（Delete）] ボタン	製品インスタンスを削除する場合は、製品インスタンスの横にあるチェックボックスをオンにして、[削除（Delete）] をクリックします。
[管理 GUI の起動（Launch Admin GUI）] ボタン	特定の製品インスタンスの管理 GUI を開く場合は、製品インスタンスの横にあるチェックボックスをオンにして、[管理 GUI の起動（Launch Admin GUI）] をクリックします。
[今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタン	Enterprise License Manager を製品インスタンスと同期させて、システムのあらゆるライセンス タイプの最新情報を取得します。
[製品インスタンス（Product Instance）] 詳細ページ （注） [製品インスタンス（Product Instances）] テーブルの製品インスタンスをクリックすると、次の詳細ページが開きます。	

設定	説明
[一般（General）] タブ	[一般（General）] タブは、次の 2 つのセクションに分かれています。 • 製品情報（Product Information） • 管理者アカウント（Administrator Account） 製品情報のセクションには、次の情報が含まれています。 • 名前（Name） • 説明（Description） • ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address） • 製品タイプ（Product Type） • 製品バージョン（Product Version） 管理者アカウントのセクションには、次の情報が含まれています。 • ユーザ名（Username） • パスワード（Password） [保存（Save）] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。 （注） [保存（Save）] ボタンをクリックする前に、[テスト接続（Test Connection）] ボタンをクリックして接続が確立されていることを確認することもできます。
[ライセンスの使用状況（License Usage）] タブ	[ライセンスの使用状況（License Usage）] タブには、ライセンス要求が図示され、ライセンス タイプ別に要求されたライセンス数の表が示されます。

[管理（Administration）] ビューの設定

[管理（Administration）] ビューでは、Enterprise License Manager の次の項目を設定できます。

- 管理者アカウント（Administrator Accounts）
- OS の管理（OS Administration）
- ディザスタ リカバリ（Disaster Recovery）
- 診断ログ（Diagnostic Logs）
- 再起動（Restart）

設定	説明
管理者アカウント（Administrator Accounts）	
[管理者の追加（Add Administrator）] ボタン	[管理者アカウント（Administrator Accounts）] ウィンドウの [管理者の追加（Add Administrator）] ボタンを選択すると、[管理者アカウントの追加（Add Administrator Account）] ウィンドウが開きます。 このウィンドウから管理者を追加できます。 次の情報を求めるプロンプトが表示されます。 • ユーザ ID（User ID） • パスワード（Password） • パスワードの再入力（Re-enter Password）
パスワードの変更（Change Password）	[管理者（Administrators）] テーブルの [パスワードの変更（Change Password）] リンクを選択すると、[パスワードの変更（Change Password）] ページが開きます。 このページから、既存の管理者アカウントのパスワードを変更できます。 次の情報を求めるプロンプトが表示されます。 • 新しいパスワード（New Password） • 新しいパスワードの再入力（Re-enter New Password）
<User ID> の編集（Edit <User ID>）	[管理者アカウント（Administrator Accounts）] ウィンドウで既存の管理者アカウントのユーザ ID を選択すると、[<User ID> の編集（Edit <User ID>）] ページが開きます。 このページから、管理者アカウントの名前や説明を変更できます。
OS の管理（OS Administration）	
OS の管理（OS Administration）	[OS の管理（OS Administration）] ページには、Cisco Unified OS の管理ユーティリティへのリンクがあります。 このリンクをクリックすると、新しいウィンドウでユーティリティが開きます。 （注） Cisco Unified OS の管理ユーティリティは、Unified CM、Unity Connection、Enterprise License Manager で共通です。 Enterprise License Manager に固有のユーティリティではありません。
ディザスタ リカバリ（Disaster Recovery）	

設定	説明
ディザスタ リカバリ（Disaster Recovery）	[ディザスタ リカバリ（Disaster Recovery）] ページには、Cisco Disaster Recovery Service ユーティリティへのリンクがあります。このリンクをクリックすると、新しいウィンドウでユーティリティが開きます。 （注） Cisco Disaster Recovery Service ユーティリティは、Unified CM、Unity Connection、Enterprise License Manager で共通です。 Enterprise License Manager に固有のユーティリティではありません。 Cisco Disaster Recovery Service ユーティリティの資料については、次の情報を参照してください。 • Unified CM：http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html • Unity Connection：http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html
診断ログ（Diagnostic Logs）	
[ログの設定（Log Settings）] タブ	[ログの設定（Log Settings）] タブには、診断カテゴリとログ レベルが一覧表示されます。 診断カテゴリごとに [ログ レベル（Log Level）] ドロップダウン リストから次のいずれかを設定できます。 • エラー（Error） • 警告（Warning） • 情報（Info） • デバッグ（Debug） 診断カテゴリごとにログ レベルを設定したら、[保存（Save）] ボタンをクリックして変更を保存できます。 あるいは、[リセット（Reset）] ボタンをクリックして、ログの設定をリセットすることも可能です。
[ログのダウンロード（Download Logs）] タブ	[ログのダウンロード（Download Logs）] タブでは、日時の範囲を指定してログ ファイルを作成できます。 デフォルトの範囲は、現在の日付の午前 12 時から現在の時刻までです。 [ログ ファイルの作成（Generate Log File）] ボタンをクリックすると、ファイルが生成されます。 作成されたログ ファイルはコンピュータにダウンロードされます。
再起動（Restart）	

設定	説明
再起動（Restart）	[再起動（Restart）] ボタンをクリックすると、Enterprise License Manager の全サービスが再起動します。

第 5 章

トラブルシューティング

Enterprise License Manager で問題が発生した場合は、エラー メッセージが表示されます。 また、問題発生時に、次のステータス メッセージが表示されることがあります。

- Enterprise License Manager へのログインに使用するユーザ名とパスワードがわからない，64 ページ
- 設定の変更が Enterprise License Manager に表示されない，64 ページ
- [エラーの原因が不明です（The cause of the error is unknown）] というエラー メッセージが表示される，64 ページ
- 製品インスタンスが変更されたが、ライセンスの使用状況データに反映されない，65 ページ
- 製品インスタンスが削除されたが、ライセンスの使用状況データに引き続き表示される，65 ページ
- 製品インスタンスがライセンスの使用状況データに表示されない，66 ページ
- 管理 GUI の製品インスタンスのデータが、Enterprise License Manager の [製品インスタンス（Product Instances）] ビューのデータと一致しない，66 ページ
- Enterprise License Manager が超過しても、超過アラートが表示されない，67 ページ
- Enterprise License Manager に製品の超過が表示されない，67 ページ
- Enterprise License Manager を別のサーバで復元後、ライセンスが見つからない，67 ページ
- ライセンスのアップグレード ウィザードを使用してシステムをコンプライアンスに準拠させることができない，68 ページ

Enterprise License Manager へのログインに使用するユーザ名とパスワードがわからない

説明

初回インストール時のシステムのユーザ名とパスワードがわからないため、Enterprise License Manager にログインできません。

解決策

OS 管理者のクレデンシャルを使用してプラットフォーム CLI にログインし、*license management list users* コマンドを実行して Enterprise License Manager アプリケーションへのサインイン時に使用するユーザ名を表示します。 このユーザのパスワードがわからない場合は、*license management change user password* コマンドを実行してパスワードを変更できます。

設定の変更が Enterprise License Manager に表示されない

説明

製品の設定変更を行いましたが、要求したライセンスの変更が Enterprise License Manager に反映されていません。

解決策

Enterprise License Manager は 24 時間間隔で製品を同期させます。 設定の最新の変更を確認するには、[インベントリ（Inventory）] > [製品インスタンス（Product Instances）] を選択し、[今すぐ同期（Synchronize Now）] をクリックします。

[エラーの原因が不明です（The cause of the error is unknown）] というエラー メッセージが表示される

説明

[エラーの原因が不明です（The cause of the error is unknown）] というエラー メッセージが表示されます。

解決策

詳細については、Enterprise License Manager のログを確認してください。 これらの詳細でエラーの原因が分からなかったら、TAC Service Request Tool、http://tools.cisco.com/ServiceRequestTool/create/DefineProblem.do を使用してサービス要求を作成するか、licensing@cisco.com まで電子メー

ルでお問い合わせください。 有効な Cisco.com ユーザ ID およびパスワードをお手元にご用意ください。 あるいは、Technical Assistance Center の主番号 800-553-2447 までお電話ください。

製品インスタンスが変更されたが、ライセンスの使用状況データに反映されない

説明

製品インスタンスの設定を変更しましたが、[モニタリング（Monitoring）] > [ダッシュボード（Dashboard）] および [モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] で表示されるライセンスの使用状況データに反映されません。

解決策

製品インスタンスを Enterprise License Manager に追加した場合は、Enterprise License Manager と製品インスタンスが同期されるまでその使用状況データを使用できません。 同期は 24 時間間隔で実行されます。あるいは [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンを使用して、[モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] から手動で同期を要求できます。

製品インスタンスが削除されたが、ライセンスの使用状況データに引き続き表示される

説明

製品インスタンスを削除しましたが、[モニタリング（Monitoring）]>[ダッシュボード（Dashboard）] および [モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] で表示されるライセンスの使用状況データに反映されません。

解決策

製品インスタンスが Enterprise License Manager から削除された場合は、Enterprise License Manager と製品インスタンスが同期されるまでその使用状況データを使用できません。 同期は 24 時間間隔で実行されます。あるいは [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンを使用して、[モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] から手動で同期を要求できます。

製品インスタンスがライセンスの使用状況データに表示されない

説明

製品インスタンスを追加しましたが、[モニタリング（Monitoring）]>[ダッシュボード（Dashboard）] および [モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] で表示されるライセンスの使用状況データに反映されません。

解決策

製品インスタンスを Enterprise License Manager に追加した場合は、Enterprise License Manager と製品インスタンスが同期されるまでその使用状況データを使用できません。 同期は 24 時間間隔で実行されます。あるいは [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンを使用して、[モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] から手動で同期を要求できます。

管理 GUI の製品インスタンスのデータが、Enterprise License Manager の [製品インスタンス（Product Instances）] ビューのデータと一致しない

説明

製品の管理 GUI で製品インスタンスに表示されるデータ（[インベントリ（Inventory）] > [製品インスタンス（Product Instances）] > [管理 GUI の起動（Launch Admin GUI）] を選択した場合など）が、[インベントリ（Inventory）]> [製品インスタンス（Product Instances）] で同じ製品インスタンスを選択したときに表示されるデータと一致しません。

解決策

製品インスタンスの設定変更は、設定変更後に同期が実行されるまで Enterprise License Manager に反映されません。 同期は 24 時間間隔で実行されます。あるいは [今すぐ同期（Synchronize Now）] ボタンを使用して、[モニタリング（Monitoring）] > [ライセンスの使用状況（License Usage）] から手動で同期を要求できます。

Enterprise License Manager が超過しても、超過アラートが表示されない

説明

Enterprise License Manager が超過しても、超過アラートが表示されません。

解決策

超過アラートを作成するのは製品インスタンスであり、Enterprise License Manager ではありません。製品で超過アラートがサポートされていることを確認してください。製品で超過アラートがサポートされている場合は、その製品の GUI で設定する必要があります。 たとえば、Unified CM の管理インターフェイスでは、アラートを発行する条件および方法を指定できます。 つまり、Unified CM の超過アラートが表示されない場合は、Unified CM で超過アラートが設定されていることを確認します。 これが設定されていない場合、アラートは管理インターフェイスで確認できますが、選択した方法（電子メール、SNMP、syslog）で受信することはできません。

Enterprise License Manager に製品の超過が表示されない

説明

製品を見ると超過していますが、Enterprise License Manager に超過が表示されません。

解決策

製品インスタンスが Enterprise License Manager と同期できない場合、ライセンスが利用可能かどうかを確認できないため超過になります。 [インベントリ（Inventory）] > [製品インスタンス（Product Instances）] で、製品インスタンスが最後に同期された日時を確認してください。 同期されていない場合は、製品インスタンスに対する Enterprise License Manager のクレデンシャルが正確であり、Enterprise License Manager と製品インスタンスがネットワーク接続されていることを確認します。

Enterprise License Manager を別のサーバで復元後、ライセンスが見つからない

説明

Enterprise License Manager を別のサーバで復元しましたが、ライセンスがありません。

解決策

別の物理サーバまたは仮想サーバに Enterprise License Manager を移動すると場合は、新しいサーバでライセンスを再ホストするか、再インストールする必要があります。 TAC Service Request Tool を使用してサービス要求を開く（http://tools.cisco.com/ServiceRequestTool/create/DefineProblem.do）か、次の手順について licensing@cisco.com まで電子メールを送信してください。 その際、有効な Cisco.com ユーザ ID とパスワードをお手元にご用意ください。 あるいは、Technical Assistance Center の主番号 800-553-2447 までお電話ください。

ライセンスのアップグレードウィザードを使用してシステムをコンプライアンスに準拠させることができない

説明

[ライセンス管理（License Management）] > [ライセンス計画（License Planning）] を選択してライセンスのアップグレード ウィザードを開いても、システムをコンプライアンスに準拠させることができません。

解決策

Enterprise License Manager の管理対象の製品インスタンス全体で使用しているライセンス数が、インストール済みライセンスと、アップグレード中の製品インスタンスで利用可能なライセンスの合計数を超える場合は、アップグレードするライセンス数が足りないため、Enterprise License Manager をコンプライアンスに準拠させることができません。 必要に応じてライセンスを追加購入するか、設定を変更して製品インスタンスで必要とされるライセンス数を減らします。